

和仏法律学校講義録

遠藤, 忠次 / 下村, 宏

(出版者 / Publisher)

和佛法律學校

(巻 / Volume)

2-28

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

65

(発行年 / Year)

1902-12-23

（明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可）
（三十五年十一月八日十九日廿一日廿三日廿五日廿六日廿八日九日十日十一日）

明治三十五年十二月二十三日發行

三十五年度 第二學年ノ二十八

和佛法律學校講義錄

第貳拾號

和佛法律學校

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3

第二學年第二十八號目次

民事訴訟法第二編(自二六五至三八八)

法學士 遠藤 忠次

財政學(自四九二至五八二)

法學士 下村 宏

雜報

○署名ノ意義○舊商法ノ下ニ於ケル會社ノ登記前ノ株式讓渡
○他所拂手形ト拒絕證書ノ作成

ノ正當ノ原因アルヤ否ヤノ點ニ制限セラレ新辯論ニ基キ再ヒ右原因ノ確認セラレタル後ニ非サレハ前期日ノ懈怠者ニ本案ノ辯論ヲ爲スコトヲ許スヘカラスト解スルカ如キハ其當ヲ得サルモノニシテ而シテ關席判決ノ申立ニ付テノ辯論ナル文字ハ決シテ斯ル意義ヲ表ハシタルモノト遮斷スルヲ許サス却テ關席判決ノ申立及ヒ之ニ基ク辯論ハ後說ノ主張スル如ク本案ノ辯論ニ屬スルモノナルヲ以テ後說ノ解釋ヲ可ナリトス

第二款 關席判決ノ本質

關席判決ハ原告ノ懈怠ニ基クモノト被告ノ懈怠ニ基クモノトノ間ニ自ラ差異アレトモ等シク其一方ノ懈怠ニ基キテ爲ス本案ノ判決ナルコトヲ忘ルヘカラス先ツ原告ノ懈怠ニ基ク關席判決ヲ説明センニ原告カ口頭辯論ノ期日ニ出席セス又ハ辯論ヲ爲ササル場合ニ被告カ關席判決ノ申立ヲ爲シ而シテ第二百五十二條ニ依リテ其申立ヲ却下スヘキ事由及ヒ第二百五十四條ニ依リテ辯論ヲ延期スヘキ事由ナク又裁判所ノ職權上調査スヘキ訴訟ノ要件ノ欠缺ナキトキ

第二學年第二十八號目次

民事訴訟法第二編(續)

法學士 遠藤 忠 次

財政學(續) 法學士 下 村 宏

雜 報

○署名ノ意義○舊民法ノ下ニ於ケル會社ノ登記前ノ株式譲渡
○他所持手形ノ担保權ノ作成

090
1902
2-28

ノ正當ノ原因アルヤ否ヤノ點ニ制限セラレ新辯論ニ基キ再ヒ右原因ノ確認セラレタル後ニ非サレハ前期日ノ懈怠者ニ本案ノ辯論ヲ爲スコトヲ許スヘカラスト解スルカ如キハ其當ヲ得サルモノニシテ而シテ關席判決ノ申立ニ付テノ辯論ナル文字ハ決シテ斯ル意義ヲ表ハシタルモノト速斷スルヲ許サス却テ關席判決ノ申立及ヒ之ニ基ク辯論ハ後說ノ主張スル如ク本案ノ辯論ニ屬スルモノナルヲ以テ後說ノ解釋ヲ可ナリトス

第二款 關席判決ノ本質

關席判決ハ原告ノ懈怠ニ基クモノト被告ノ懈怠ニ基クモノトノ間ニ自ラ差異アレトモ等シク其一方ノ懈怠ニ基キテ爲ス本案ノ判決ナルコトヲ忘ルヘカラズ先ツ原告ノ懈怠ニ基ク關席判決ヲ説明センニ原告カ口頭辯論ノ期日ニ出頭セス又ハ辯論ヲ爲ササル場合ニ被告カ關席判決ノ申立ヲ爲シ而シテ第二百五十二條ニ依リテ其申立ヲ却下スヘキ事由及ヒ第二百五十四條ニ依リテ辯論ヲ延期スヘキ事由ナク又裁判所ノ職權上調査スヘキ訴訟ノ要件ノ欠缺ナキトキ

ハ第二百四十七條ノ規定ニ從ヒテ訴ノ却下ヲ言渡スヘキモノナリ此判決ハ固
コリ請求ノ當否ニ付キ審理ノ手續ヲ盡サスシテ直チニ爲スコトヲ得ルモノナ
レトモ實體上ノ請求權ヲ喪失セシムル本案ノ判決タルヲ失ハス隨テ訴ノ不適
法トシテ却下セラレタル場合ト異ナリ實體上ノ確定力ヲ生スルヲ以テ若シ原
告カ其判決ノ確定後再ヒ同一ノ請求ニ付キ訴ヲ起シタルトキハ被告ハ前開席
判決ノ確定力ヲ援用スルコトヲ得ヘシ抑モ法律カ原告ノ懈怠ニ基キ此ノ如キ
判決ヲ爲スコトヲ命スル所以ハ其懈怠ニ因リ訴ヲ取下ケタルモノト看做スカ
爲メニ非サルハ勿論又請求ヲ拋棄シタリト看做スカ爲メニモ非ス又原告カ被
告ノ抗辯ヲ明白シタルモノト看做スカ爲メニモ非ス被告ハ抗辯ヲ提出シテ原
告ノ請求ヲ争フ以前ニ先ツ開席判決ノ申立ヲ爲シ直チニ右ノ判決ヲ得ルモノ
ナリ蓋シ各當事者ハ訴訟上本案ノ判決ヲ受クル權利及ヒ義務アリ而シテ原告
ハ被告カ其權利ヲ行使シテ本案ノ判決ヲ求ムルニ當リ裁判所ヲシテ自己ノ請
求ヲ正當トシテ採用セシムルニ必要ノ手段タル口頭辯論ヲ爲ササルヲ以テ右
等ノ推定ヲ爲スノ必要ナク當然其訴ヲ却下スルノ外ナキカ故ナリ

次ニ被告カ辯論期日ヲ懈怠シ原告カ開席判決ノ申立ヲ爲シ而シテ其申立ヲ却
下スヘキ事由又ハ辯論ヲ延期スヘキ事由ナク又訴訟ノ要件ノ欠缺ナキトキハ
第二百四十八條ノ規定ニ從ヒ被告カ原告ノ事實上ノ口頭供述ヲ明白シタルモ
ノト看做シ開席判決ヲ爲スヘキモノトス是レ亦實體上ノ確定力ヲ生スヘキ本
案ノ判決タルコトハ明白ニシテ被告ハ其義務トシテ答辯ヲ爲シ本案ノ判決ヲ
受ケサルヲ得スシテ原告ハ之ヲ強要スルノ權アルニ被告ハ答辯ノ必要手段タ
ル口頭辯論ヲ爲ササル結果原告ノ申立ニ因リ遂ニ此ノ如クニシテ本案ノ判決
ヲ受クルニ至ルモノナリ但人事訴訟ニ於テハ被告ノ懈怠ニ基キ開席判決ヲ爲
スコトヲ得ス是レ此訴訟ノ目的ハ公益ニ關シ當事者ノ隨意ノ處分ヲ許ササル
結果認諾自白等ノ規定ヲ適用スヘカラサルカ故ナリ人事訴訟法第一一條第二
六條、第三九條、第五九條）
被告ノ懈怠ニ基キ開席判決ノ手續ニ於テハ右ノ如ク原告ノ事實上ノ供述ヲ被
告ニ於テ明白シタルモノト看做スノ結果多ク場合ニ於テハ被告ノ不利ニ歸
スヘキモノナレトモ常ニ必スシモ然リト謂フコトヲ得ス何トナレハ右自白ノ

推定ハ原告ノ主張シタル事實ノ立證ヲ待タスシテ直チニ眞實ト看做サルモノ、利益ヲ原告ニ付與スルニ止マリ其實ヲ基礎トスル原告ノ請求因果シテ法律上理由アルヤ否ヤハ全ク別箇ノ問題ニ屬シ縱令原告主張ノ事實ヲ眞實ナリトスルモ之ニ基ク請求カ法律上不當ナルトキハ裁判所ハ被告ノ關席ノ儘原告ノ訴ヲ却下スルノ判決ヲ爲ササルヘカラサレハナリ但此却下ノ判決ハ懈怠ヲ理由トシテ爲シタル所謂關席判決ニ非サルヲ以テ原告ハ之ニ對シ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得スシテ通常ノ上訴方法ニ依リ不服申立ヲ爲スノ外ナシ若シ又被告ノ懈怠ノ場合ニ裁判所カ原告ノ請求ノ一部ヲ正當トシ他ノ一部ヲ不當トスルトキハ各其部分ニ付キ被告敗訴ノ判決及ヒ原告ノ請求却下ノ判決ヲ爲スヘク即チ此場合ニ付テハ請求ノ一部ニ付テノ關席判決ヲ爲スヘキモノナリ關席判決ヲ爲スニハ出頭シタル一方ノ申立アルヲ必要トシ而シテ其一方ハ關席判決ヲ求メスシテ辯論ノ延期ヲ求メ又ハ訴訟ヲ休止セシムルコトヲ得ルハ前述ノ如シ既ニ訴訟ノ全部ニ付テ此權能アリトセハ出頭者ハ其一部ニ付テモ亦之ヲ行使スルコトヲ得ルモノト謂ハサルヘカラス故ニ辯論期日ニ出頭シタ

ル原告若クハ被告ハ一ノ訴ヲ以テ起シタル數箇ノ請求中ノ一箇ニ付キ關席判決ヲ求メ他ノ請求ニ付テハ辯論ノ延期ヲ求メ又ハ一ノ請求中ノ一部分ニ付テノ關席判決ヲ求メ他ノ部分ニ付テハ之ヲ求メス或ハ又本訴及ヒ反訴アリタル場合ニ於テ其一二付テ關席判決ヲ求メ他ノ一二付テハ辯論ノ延期ヲ求ムルコトヲ得ヘシ何トナレハ之ヲ禁止スルノ法文ナク又之カ爲メニ何等ノ障害ヲ生セサルヲ以テナリ又訴訟ノ全部ニ付キ關席判決ノ申立アリタル場合ニ於テモ關席判決ヲ爲スノ條件カ具備スルト否トニ從ヒ裁判所ハ本訴若クハ反訴ノ一ノミニ付キ又ハ數箇ノ請求中ノ一箇若クハ一箇ノ請求ノ一部ノミニ付キ關席判決ヲ爲シ他ノ訴訟ノ部分ニ付テハ關席判決ノ申立ヲ却下シ又ハ關席判決ニ非サル却下ノ判決ヲ爲スヘキモノナリ又關席判決ノ申立ハ關席判決ノ關席判決ハ以上説明シタル如ク本來本案ノ終局判決タルヘキモノナレトモ中間訴訟ノ辯論ノ爲メ定メタル期日ヲ當事者ノ一方カ懈怠シタル場合ニ於テモ亦關席判決手續ノ規定ヲ準用スヘキハ第二百六十五條第二項ニ定ムル所ノ如シ此場合ニ於テハ其關席中間判決ハ單ニ中間訴訟ヲ完結スルニ止マル此ノ如

タ中間訴訟ニ開席判決ノ規定ヲ準用スルコトヲ得ルハ特ニ中間訴訟ノ辯論ノ爲メ定メタル期日ヲ當事者ノ一方カ懈怠シタルトキニ限り若シ其期日カ中間訴訟及ヒ本案ノ辯論ノ爲メ共通ニ定メラレタルモノナルトキハ之ヲ懈怠シタル當事者ノ一方ニ對シテハ本案ヲ終局スル開席判決ヲ爲スヘキモノナリ而シテ中間訴訟ノ辯論ヲ懈怠シテ本案ノ辯論ノミヲ爲シタルモノニ對シテハ開席中間判決ヲ爲スヘカラス即チ此場合ハ第二百五十一條ノ規定ニ包含スルモノト謂ハサルヘカラス開席中間判決ニ對シテハ勿論故障ヲ申立ツルコトヲ得ルヲ以テ此判決ヲ爲シタルトキハ故障期間ノ滿了又ハ故障ノ完結後ニ非サレハ本案ノ判決ヲ爲スコトヲ得サルナリ何トナレハ故障ノ結果其中間判決ハ廢棄セラルルコトアルヘキヲ以テ隨テ之ヲ基本トスル本案ノ手續及ヒ判決ハ其效ナキニ至ルノ不都合ヲ生スルコトアルヘキヲ以テナリ

右ノ外開席判決ノ規定ハ反訴ニハ勿論既ニ原因ノ確定シタル請求ノ數額ノ確定ヲ目的トスル訴訟手續ニモ準用スヘキハ第二百六十五條第一項ノ規定スル所ナリ故ニ一旦請求ノ原因ヲ正當ナリトスル中間判決アリタル後原告カ數額

ニ付テノ辯論ノ期日ヲ懈怠シ而シテ開席判決ヲ爲スヘキ條件具備スルトキハ被告ノ申立ニ因リ訴却下ノ判決ヲ爲スヘキモノナリ是レ決シテ請求ノ原因ヲ正當ナリト爲シタル中間判決ト抵觸スルモノニ非ス何トナレハ右中間判決ハ未タ原告ノ請求ヲ是認シタルモノニ非スシテ數額ニ付テノ辯論ハ其請求ノ當否ヲ判斷スルニ必要ナルモノナレハナリ又右辯論期日ニ被告カ開席スルトキハ原告ノ申立ニ因リ原告ノ事實上ノ供述ヲ被告ニ於テ自白シタルモノト看做シ判決ヲ爲スヘキモノナリ但此場合ニ於テハ請求ノ原因ハ既ニ中間判決ニ於テ是認セラレ而シテ裁判所ハ之ニ羈束セラルルヲ以テ請求ノ原因ナシトノ理由ニ基キテハ第二百四十八條末段ニ規定セル却下ノ判決ヲ爲スコト能ハサルハ勿論ナリ此他原告若クハ被告カ中間判決後ノ辯論期日ヲ懈怠シタルトキハ無論開席判決ヲ爲スヘキモノナリ

第三款 故障

故障トハ開席判決ヲ受ケタル懈怠者カ其判決ニ對シテ原裁判所ニ爲スヘキ不

服申立ノ方法ナリ當事者ノ一方ノ懈怠アル場合ニ爲サレタル判決ハ口頭辯論ニ出頭シテ開席判決ノ申立ヲ爲シタル他ノ一方ニ不利ナルトキト雖モ猶ホ其者ニ對シテハ開席判決ニ非サルヲ以テ其申立人ハ之ニ對シテ故障ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス通常ノ上訴ニ依リ不服ノ申立ヲ爲スヘキモノナリ之ニ反シテ自己ノ懈怠ニ基キ開席判決ノ不利益ヲ受ケタル懈怠者ハ之ニ對シテ唯故障ヲ爲シ得ルノミニシテ上訴ヲ爲スコトヲ得ス但故障ヲ棄却スル新開席判決ニ對シテハ故障ヲ許ササルヲ以テ懈怠ナカリシコトヲ理由トスルトキニ限リ上訴ヲ爲スコトヲ得第三九八條故ニ例ヘハ被告ノ懈怠アル場合ニ原告ノ申立ニ因リ其實事上ノ供述ヲ被告ニ於テ自白シタルモノト看做スモ尙ホ原告ノ請求ノ一分ヲ不當ナリトシ其請求ノ部分ヲ却下シ他ノ一分ニ付キ被告敗訴ノ判決ヲ爲シタルトキハ此判決ニ對シ被告ハ故障ヲ爲スコトヲ得ヘタ又原告ハ控訴ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ若シ此ノ如ク一ノ判決ニ對シテ一方ヨリ故障ヲ爲シ他ノ一方ヨリ控訴若クハ上告ヲ爲シタルトキハ其控訴若クハ上告ヲ受ケタル裁判所ハ無用ノ手續ヲ避クル爲メ故障ノ完結ニ至ルマテ職權ヲ以テ控訴若クハ上告

附

ノ口頭辯論ヲ延期スヘキモノトス(第四一〇條第二項第四五四條)

故障ノ申立ハ懈怠ノ結果ヲ除去スル方法ニシテ上訴ニ非ス隨テ上級審ニ向ヒテ爲スモノニ非ス開席判決ヲ爲シタル前裁判所ニ爲スヘキモノナリ而シテ實體上ノ條件即チ懈怠ノ正當ノ理由アリシコトヲ必要トセス單ニ形式的要件ヲ具備スルヲ以テ足ル其形式的要件トハ書面ヲ差出シテ爲スコト是ナリ而シテ其書面ニハ第一故障ヲ申立ツル開席判決ヲ表示スルコト第二故障ヲ申立ツル旨ヲ掲クルコトヲ要ス此他尙ホ本案ニ關スル事實證據等必要ナル準備事項ヲモ掲クヘキモノトス是レ故障ノ受理セララルトキハ訴訟ハ開席前ノ程度ニ復シ直チニ本案ノ辯論ヲ爲スヘキヲ以テナリ然レトモ此事項ハ前二ノモノト異ナリ必要ノ記載事項ニ非サレハ之ヲ故障申立ノ書面ニ掲ケサルモ爲メニ其申立ヲ不適法ナリトスルヲ得ス單ニ一般訴訟ノ準備事項ニ關スル規定ヲ適用スヘキノミ(第二五六條)

又故障ハ通例十四日ノ不變期間内ニ申立ツルコトヲ要ス此期間ハ開席判決ノ送達ヨリ起算スヘキモノナリ然レトモ故障ハ控訴又ハ上告ト異ナリ此期間ノ

未タ始マラサル間即チ關席判決言渡後其送達前ニ於テ爲スモ有效ナリトス故ニ關席判決ノ送達ハ故障ヲ爲ス爲メニ必要ナラスシテ唯故障期間ヲ滿了セシメ以テ其判決ヲ確定セシムルニ必要ナルノミ外國ニ於テ送達ヲ爲スヘキトキ又ハ公示送達ヲ爲スヘキトキハ右十四日ノ不變期間ハ短キニ失スルカ故ニ裁判所ニ於テ關席判決中ニ相當ノ故障期間ヲ定ムヘク若シ之ヲ遺忘シ或ハ之ヲ定ムルコト能ハサルノ事情アリテ關席判決中ニ定メナリシトキハ後日決定ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノトス此決定ヲ爲スニ付テハ口頭辯論ヲ經ルヲ必要トセス面シテ此決定ニ對シテハ不服申立ノ途ナシ(第二五五條)右ノ如ク關席判決又ハ決定ヲ以テ定メタル故障期間ハ亦不變期間タルヲ失ハス

凡ソ關席判決ニ對シ故障ノ申立アリタルトキハ裁判長ハ先ツ其適法ナルヤ否ヤヲ調査シ若シ其判然許スヘカラサルトキ例ヘハ口頭辯論ニ出頭シテ關席判決ヲ申立テタル者ヨリ故障ヲ爲シタル場合若クハ故障ヲ棄却スル新關席判決ニ對シ故障ヲ申立テタル場合ノ如キ又ハ判然法律上ノ方式ニ適セサルトキ例ヘハ故障申立ノ書面ニ關席判決ヲ表示セサル場合ノ如キ或ハ又明カニ故障期

間ノ經過シタル後ニ故障ヲ起シタル場合ノ如キハ裁判長ノ命令ヲ以テ之ヲ却下スルヲ得ルモノトス此ノ如ク故障ノ不適法ナルコト明白ナル場合ニ故ラニ口頭辯論ノ期日ヲ定メ辯論ヲ經テ判決ヲ以テ故障ヲ棄却スルカ如キハ實際ニ於テ寔ニ迂愚ノ手續ト謂ハサルヘカラス是レ便宜上此規定ヲ設ケタル所以ナリ其他第百九十二條第四百二條ノ規定ノ如キ皆同一ノ旨趣ニ出ツ但故障却下ノ命令ニ對シテハ即時抗告ヲ以テ不服ヲ申立ツルコトヲ得(第二五七條)

右ノ如ク裁判長カ故障ヲ判然不適法ナリトシテ命令ヲ以テ却下スル場合ノ外ハ裁判所ハ故障申立ノ書面ヲ相手方ニ送達シ口頭辯論ノ期日ヲ定メ當事者雙方ヲ呼出ササルヘカラス(第二五八條)法文ニハ「故障ニ付キ口頭辯論ノ新期日ヲ定メ」トアルモ此新期日ナルモノハ故障ノ受理不受理ニ關スル辯論ノミヲ期日ナリトスルヲ得何トナレハ裁判所ニ於テ故障ヲ適法ナリトスルトキハ直チニ本案ノ辯論ヲ爲サシメサルヘカラサレハナリ此場合ニ於テモ尙ホ裁判所ハ先ツ故障ノ適法ナルヤ否ヤ即チ故障ヲ申立テラレタル判決カ果シテ故障ヲ許スヘキモノナルヤ否ヤ又其故障ハ法律ニ定メタル方式ニ適合スルヤ否ヤ故障

期間内ニ爲シタルモノナルヤ否ヤニ付キ職權調査ヲ爲ササルヘカラス何トナレハ此等ノ點ニ付キ多少ノ疑問アルトキハ裁判長ハ故障ヲ却下スル能ハサルノミナラス縱令判然不適法ナル場合ニ於テモ裁判長カ之ヲ却下セサルコトナキニ非サレハナリ而シテ若シ故障カ右要件ノ一ヲ缺タトキハ之ヲ不適法トシテ棄却スルノ判決ヲ爲スヘキナリ此判決ハ裁判所ノ職權上調査スヘキ故障ノ要件ノ欠缺ニ基ク判決ナルヲ以テ假ニ當事者ノ一方カ開席シタル場合ニ於テ爲サレタリトスルモ之ヲ開席判決ト稱スルコトヲ得ス隨テ通常ノ上訴方法ニ依リテ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得ルノミ(第二五九條)

裁判所カ故障ヲ適法トスルトキハ訴訟ハ懈怠前ノ程度ニ復ス即チ當事者ノ懈怠ハ之ニ依リテ除去セラルルモノトス是レ故障申立ノ主タル效果ナリ是ヲ以テ裁判所ハ直チニ本案ノ口頭辯論ヲ爲サシムヘク當事者ハ新ニ攻撃若クハ防禦ノ方法ヲ提出スルコトヲ得ヘシ又被告ハ抗辯ヲ提出スルコトヲ得ヘキナリ然レトモ若シ開席判決カ辯論續行期日ノ懈怠ニ基クモノナルトキハ前回ノ口頭辯論ニ於テ爲シタル辯論證據決定證據調中間判決等ハ皆其效力ヲ有

スルハ勿論ナリ(第二六〇條)故障ノ適法ナルヤ否ヤヲ調査スルハ固ヨリ裁判所ノ職權ニ屬シ而シテ故障ヲ適法トスル場合ニ於テハ別ニ形式的裁判ヲ爲スコトヲ要セス直チニ本案ノ辯論ヲ爲サシムルヲ得ルモノナリ然レトモ若シ故障ノ適法ナルヤ否ヤニ付キ當事者ノ間ニ爭ヲ生シタルトキハ別ニ其點ニ付キ中間判決ヲ爲スコトヲ得ヘタ又之ヲ相當トセサルトキハ終局判決ノ理由中ニ故障ノ適法ナル旨ノ裁判ヲ爲スヘキモノト信ス

故障ノ受理セラレタルトキハ開席判決ハ實體上消滅ニ歸シタルモノトシ更ニ新辯論ニ基キ判決ヲ爲スヘキモノナレトモ然レトモ尙ホ開席判決ハ形式上存在スルモノナルカ故ニ若シ新辯論ニ基キテ爲スヘキ本案ノ判決カ前開席判決ト符合スルトキハ之ヲ維持スル旨ノ判決ヲ言渡スヲ要シ然ラサルトキハ前開席判決ヲ廢棄シ更ニ相當ノ新判決ヲ言渡スコトヲ要ス(第二六一條)此他尙ホ開席判決カ故障受理ノ後ニ於テモ形式上存在スルノ結果トシテ若シ其判決ニ假執行ノ宣言アリテ強制執行ノ開始セラレタルトキハ適法ノ故障申立アリタル場合ニ於テモ其強制執行ハ當然停止セラレス故障申立者ハ第五百十二條第五

百條ノ規定ニ從ヒ強制執行ノ一時ノ停止又ハ執行處分ノ取消ノ命令ヲ求ムルコトヲ得ルニ過キス

故障申立ノ後第二百五十八條ニ從ヒ定メタル新辯論期日ニ故障申立人ノ相手方カ出頭セス又ハ本案ノ辯論ヲ爲ササル場合ニ裁判所カ故障ヲ適法ナリトシタルトキハ出頭シタル故障申立人ノ申立ニ因リ關席判決ヲ爲スヘキモノトス但故障カ不適法ナルトキハ當事者ノ孰レカ期日ヲ懈怠スルヲ問ハス常ニ其懈怠ヲ理由トスルニ非サル故障棄却ノ判決ヲ爲ササルヘカラス若シ又故障申立人自ラ右辯論期日ヲ懈怠シ且關席判決ヲ爲ス要件ヲ具備スルトキハ故障申立人ニ對スル故障棄却ノ關席判決ヲ爲スヘキモノトス之ヲ新關席判決ト謂フ此關席判決ニ對シテハ更ニ故障ヲ申立ツルコトヲ得ス唯懈怠ナカリシコトヲ理由トシテ上訴ヲ爲シ得ルニ過キス(第二六三條)而シテ右故障申立人ノ辯論期日ノ懈怠ハ其期日ノ變更セラレ又辯論ノ延期セラレタル場合ニ於テモ亦同一ノ結果ヲ生スヘシト雖モ若シ一旦此期日ニ當事者雙方出頭シテ口頭辯論ヲ爲シ故障カ適法ト認メラレ訴訟カ關席前ノ程度ニ復シタル後其辯論續行ノ期日ヲ

定メタル場合ニ故障申立人カ續行期日ニ關席シタルトキハ最早故障棄却ノ新關席判決ヲ爲スヘカラス唯此場合ニ於テハ更ニ故障ヲ許スヘキ再度ノ關席判決ヲ爲スヘキモノナリ是レ第二百六十三條ノ規定ニハ第二百四十九條ノ規定ト異ナリテ辯論續行期日ノ懈怠ヲ包含セサル所以ナリ

右再度ノ關席判決ニ對シ懈怠者カ更ニ適法ノ故障ヲ申立テ新辯論期日ニ出頭シテ辯論ヲ爲シ訴訟ノ關席前ノ程度ニ復シタル後又辯論續行ノ期日ニ關席スルトキハ同シク故障ヲ許スヘキ關席判決ヲ爲スヘキモノナリ此ノ如クスルトキハ同一事件ニ付キ數度ノ故障ヲ許スヘキ關席判決ヲ生シ殆ト底止スル所ヲ知ラサルカ如キモ再度以上ノ關席判決ニハ第五百一條ノ規定ニ依リテ假執行ノ宣言ヲ付スルコトヲ得ヘタ而シテ故障申立ハ當然執行停止ノ效力ヲ生セサルヲ以テ自ラ執行ヲ遅延セシムルノ弊害ヲ救済スルニ足ルヘシ

適法ナル故障ノ申立ハ懈怠ノ結果ヲ除去スルノ效アルハ前述ノ如クナレトモ懈怠ニ因リテ生シタル訴訟費用ハ本案訴訟ノ曲直如何ヲ論セス懈怠者常ニ之ヲ負擔スヘク故障ノ申立ヲ爲シタルカ爲メニ其責ヲ免ルルコト能ハス故ニ例

へハ原告カ關席シテ訴却下ノ判決ヲ受ケ故障ヲ申立テ更ニ辯論ヲ經テ結局勝訴ノ判決ヲ受ケ即チ前關席判決カ廢棄セラレタルトキト雖モ前ノ關席ノ際ニ於ケル旅費日當等ノ訴訟費用及ヒ故障申立ニ關スル費用ノ如キハ固ヨリ原告ノ關席ナカリセハ生スヘカラサリシ無益ノ費用ナレハ原告ノ勝訴ニ拘ラス其負擔ニ歸スヘキモノナリ但關席判決ヲ爲スヘキ要件具備セサルニ拘ハラス裁判所カ關席判決ヲ爲シタルトキハ之ニ關スル訴訟費用ハ關席者ノ當然負擔スヘキモノニ非スシテ總則第七十二條第七十三條ノ規定ニ從ヒ敗訴者ノ負擔ニ歸スヘキモノナリ何トナレハ此場合ニ於テハ關席者ハ元來懈怠ノ結果ヲ受タヘキモノニ非サレハナリ是レ第二百六十二條ニ法律ニ從ヒ關席判決ヲ爲シタルトキ云云トアル所以ナリ又關席判決カ適法ニ言渡サレタルトキト雖モ相手方ノ不當ナル異議ニ因リテ生シタル費用ハ相手方ノ負擔ニ歸ス例ヘハ被告カ原告ノ申立タル故障ニ付キ不當ナル異議ヲ申立テ爲メニ證據調ヲ爲スニ至リタルトキハ其證據調ニ關スル費用ノ如キハ被告ノ過失ニ因リテ生シタルモノナレハ關席者タルノ故ヲ以テ之ヲ原告ニ負擔セシムルノ理ナク其之ヲ生ス

ルニ至ラシメタル過失アル被告ヲシテ責任ヲ負ハシメサルヘカラス(第二六二條)

故障ハ通常ノ關席判決ニ對スル唯一ノ不服申立ノ方法ニシテ關席判決ハ故障期間ノ満了ニ因リテ確定スルモノナレハ其期間内ニ爲シタル故障申立ハ關席判決ノ確定ヲ遮斷スルノ效アルハ第四百九十八條ノ明言スル所ナリ而シテ第二百六十四條ニハ故障ノ拋棄及ヒ其取下ニ付テハ控訴ノ拋棄及ヒ取下ニ付テノ規定ヲ準用スト規定スルモ我民事訴訟法中控訴ノ拋棄ナルモノノ規定ヲ存セス此點ハ法律ノ不備ト謂ハサルヘカラス蓋シ控訴若クハ故障ノ拋棄トハ之ヲ提起スル以前ニ於テ其權利ヲ拋棄スルノ謂ナルヘシト雖モ之ニ關スル規定ヲ缺如スルノ結果其意思表示ハ直接ニ訴訟法上ノ效力ヲ生セサルモノタリ然レトモ控訴ノ取下即チ控訴提起後ノ拋棄ニ付テハ其條件及ヒ效果ヲ第三百九十九條ニ規定セリ即チ控訴ノ取下ハ口頭辯論ノ前ニ於テハ相手方ノ承諾ナクシテ隨意ニ爲スコトヲ得ルモ一旦被控訴人カ口頭辯論ヲ始メタル後ハ其承諾アルニ非サレハ爲スコトヲ得ス是レ第一審ノ訴ノ取下ニ於ケルト同一ノ理由

ニ基クモノナリ而シテ控訴ノ取下ハ上訴權ヲ喪失スルノ結果ヲ生スルヲ以テ未タ控訴期間ノ満了セザルトキト雖モ爲メニ第一審ノ判決ハ確定スルニ至リ再ヒ之ニ對シテ控訴ヲ申立ツルコトヲ得サルナリ此控訴取下ニ關スル規定ハ總テ故障ノ取下ニ準用スヘキモノトス

第七節 準備手續

地方裁判所ニ於ケル第一審ノ訴訟ハ一般ニ上來説明シタル手續ニ從ヒ訴ノ提起ヨリ口頭辯論ヲ經テ判決ニ至リ終局ヲ告クルモノナレトモ訴訟事件ノ性質ニ因リテハ係争關係ノ頗ル錯雜シテ數多ノ争點ヲ生スルコトアリ斯ル場合ニ於テモ必ズ正則ニ從ヒ受訴裁判所ノ口頭辯論ニ於テノミー一審理ノ手續ヲ爲スヘキモノトセハ係争事實及ヒ證據ノ辯論ニ紛雜ヲ來シ爲メニ訴訟ノ完結ヲ遲延セシムルノ恐アリ是ニ於テ法律ハ計算ノ當否財産ノ分別其他之ニ類スル關係ヲ目的トスル訴訟ノ口頭辯論ニ於テ許多ノ本案ノ争點ヲ生シタルトキハ簡便ノ手續ニ依リテ之ヲ審査シ以テ後ノ辯論及ヒ裁判ノ基礎ヲ定ムル爲メ受

命判事ヲシテ其訴訟ニ於ケル争點及ヒ攻撃防禦ノ方法證據方法證據抗辯等ヲ査定セシムルコトヲ許セリ之ヲ準備手續ト謂フ(第二六六條)

準備手續ハ本案ノ判決ノ爲メニノミ命スヘキモノナレハ本案ノ辯論前被告カ妨訴ノ抗辯ヲ提出シタルトキハ先ツ妨訴ノ抗辯ニ付キ判決ヲ爲シ本案ノ辯論ヲ開始スルニ至リタルトキニ非サレハ準備手續ヲ命スルコトヲ得ス若シ妨訴ノ抗辯ノ理由アリテ訴ヲ却下スヘキトキハ勿論本案ノ辯論ノ必要ナクレハナリ(第二〇八條)

受訴裁判所カ準備手續ヲ命スルニハ決定ヲ言渡スヲ要ス而シテ其施行ハ受命判事ヲシテ爲サシムヘキヲ以テ決定言渡ノ際裁判長ハ受命判事ヲ指定シ且其施行ノ期日ヲモ定ムルモノトス但此期日ハ必ズシモ裁判長ニ於テ定ムルヲ要セス裁判長若シ之ヲ指定セザルトキハ受命判事自ラ之ヲ定ムルコトヲ得故ニ裁判長ノ之ヲ定ムルト受命判事ノ之ヲ定ムルトハ其時ノ便宜ニ從フモノナリ又一且指定セラレタル受命判事差支ヲ生シタルトキハ更ニ裁判長ハ他ノ判事ニ委任シテ準備手續ヲ施行セシムヘキモノナリ(第二六七條)

受訴裁判所ノ決定ニ因リ準備手續施行ノ委任ヲ受ケタル受命判事ハ裁判長又ハ自己ノ指定シタル施行期日ニ於テ調書ヲ以テ左ノ諸件ヲ明確ニスヘキモノトス

第一 當事者ハ如何ナル請求ヲ爲スヤ又如何ナル攻撃防禦ノ方法ヲ主張スルヤ

第二 右請求及ヒ攻撃防禦ノ方法中其如何ナルモノニ爭アリ又如何ナルモノニ爭ナキヤ

第三 爭アル請求及ヒ攻撃防禦ノ方法ニ付テハ如何ナル事實上ノ關係如何ナル證據方法、如何ナル證據抗辯ヲ主張スルヤ又其證據方法並ニ證據抗辯ニ關シテ如何ナル陳述ヲ爲シ及ヒ如何ナル申立ヲ爲シタルヤ

右ノ手續ハ本案訴訟ニ於テモ又中間訴訟ニ於テモ受訴裁判所カ判決又ハ證據決定ヲ爲スコトヲ得ルニ熟スルマテ之ヲ續行シタル後終結スヘキモノトス故ニ一旦準備手續ヲ施行シタル後ニ於テモ受訴裁判所カ不十分ナルコトヲ認メタルトキハ更ニ其手續ノ續行ヲ爲サシムルコトヲ得ヘシ(第二六八條)

準備手續ニ於ケル審問ノ期日ニ當事者ノ一方カ受命判事ノ面前ニ出頭セサルモ關席判決ヲ爲スコト能ハサルハ勿論ナリ何トナレハ受命判事ハ前述ノ三箇ノ事項ヲ取調フルノ委任ヲ受ケタルノミニシテ固ヨリ訴訟ニ付キ判決ヲ爲スノ權能ヲ有セサレハナリ故ニ此場合ニ於テハ受命判事ハ先ツ其取調ヲ爲スヘキ事項ニ付キ出頭シタル當事者ノ一方ノ爲シタル提供ヲ調書ニ記載シテ之ヲ明確ナラシメ更ニ新期日ヲ定メ其調書ノ謄本ヲ關席シタル原告若クハ被告ニ送達シテ之ヲ新期日ニ呼出シ其者ノ陳述ヲ聽キ又之ヲ調書ニ記載シテ明確ニスヘキモノナリ然レトモ若シ前期日ニ關席シタル原告若クハ被告カ調書ノ謄本ノ送達ヲ受ケ且合式ノ呼出ヲ受ケナカラ再ヒ新期日ニ出頭セサルトキハ懈怠ノ結果トシテ其調書ニ掲載セル相手方ノ事實上ノ主張ヲ自白シタルモノト看做サレ其點ニ關スル準備手續ハ完結ヲ告グルモノトス(第二六九條但第二ノ期日ニ於テ出頭シタル當事者ノ一方カ新ニ提出シタル申立又ハ事實上ノ主張ニ付テハ關席者更ニ其調書ノ送達ニ依リテ通知セラレ且第三新期日ノ呼出ヲ受ケテ尙ホ關席シタルトキニアラサレハ右懈怠ノ結果ヲ生モサルハ勿論ナリ

又當事者ノ雙方カ準備手續ノ期日ニ出頭ゼサルトキハ通常ノ辯論期日ニ於ケルト同シク訴訟ハ休止ト爲リ當事者ノ申立ヲ待チテ受命判事ハ更ニ期日ヲ定メ雙方ヲ呼出スモノトス。又當事者ハ其ノ申立ニ基キテ準備手續ノ期日ニ出頭シテ受命判事カ準備手續ヲ終了シテ一件記録ヲ受訴裁判所ニ送付シタルトキハ當事者ノ一方カ準備手續ノ期日ニ闕席シタルト否トヲ問ハス受訴裁判所ハ職權ヲ以テ更ニ口頭辯論ノ期日ヲ定メ之ヲ當事者ニ通知セサルヘカラス(第二七〇條)而シテ其口頭辯論ニ於テハ當事者ハ準備手續ノ調書ニ基キテ準備手續ノ結果ヲ演述シ之ヲ材料トシテ法律上ノ口頭辯論ヲ爲スヘキモノトス之ヲ詳言スレハ準備手續ニ於ケル當事者ノ供述ハ勿論受命判事ノ面前ニ於テ口頭ヲ以テ爲スヘキモノナリト雖モ既ニ之ヲ調書ニ記載シテ其手續ヲ完結シタル以上ハ其調書ハ即チ受訴裁判所ニ於ケル口頭辯論及ヒ判決ノ材料タルヘキモノナレハ當事者其調書ニ記載セル事實ノ範圍内ニ於テ辯論ヲ爲スヘク受訴裁判所ハ同シク其調書ニ付キ所謂書面審理ヲ爲シ且法律上ノ論争ニ付キ判斷ヲ下シ以テ判決ヲ爲スヘキモノトス故ニ當事者ハ準備手續ニ於テ受命判事ノ調書ヲ以

テ明確ニスヘキ事實又ハ證書ニ付キ陳述ヲ爲サス又ハ之ヲ拒ミタルトキハ第一百一條第二項ノ適用ヲ受クヘク而シテ準備手續ノ完結後受訴裁判所ニ於ケル口頭辯論ニ於テ更ニ其陳述ヲ追完スルコトヲ得ス又準備手續中受命判事ノ調書ヲ以テ明確ニセサリシ請求又ハ攻撃防禦ノ方法證據方法證據抗辯等ハ當事者ノ懈怠ニ因リテ之ヲ準備手續中ニ提出セサリシモノナルトキハ受訴裁判所ニ於ケル口頭辯論ニ於テ更ニ之ヲ提出主張スルコトヲ得ス唯其懈怠ナキ場合即チ準備手續終結後ニ至リテ始メテ發生シ若クハ當事者ノ之ヲ知り得タルコトヲ疏明スルトキニ限リ口頭辯論ニ於テ新ニ提出スルコトヲ得ルノミ(第二七一條第一項第二二條是レ亦第二百九條第二百十四條ノ普通ノ規則ニ反シニ慣備手續ノ目的ヲ達スル爲メニ必要ナリトシテ設ケタル例外ノ規定ナリ但シ右懈怠ニ由ル失權ハ準備手續ヲ爲シタル審級ニ限リテ生スルモノニシテ上級審ニ至ルマテ繼續スルモノニ非ス隨テ失權者ハ第四百十五條乃至第四百十七條ノ規定ニ依リ控訴審ニ於テ新ナル請求攻撃防禦ノ方法證據方法ヲ提出シ又新ニ事實及ヒ證書ニ付テ陳述ヲ爲スコトヲ得ベキナリ。又當事者ハ其ノ申立ニ基キテ準備手續ノ期日ニ出頭シテ受命判事カ準備手續ヲ終了シテ一件記録ヲ受訴裁判所ニ送付シタルトキハ當事者ノ一方カ準備手續ノ期日ニ闕席シタルト否トヲ問ハス受訴裁判所ハ職權ヲ以テ更ニ口頭辯論ノ期日ヲ定メ之ヲ當事者ニ通知セサルヘカラス(第二七〇條)而シテ其口頭辯論ニ於テハ當事者ハ準備手續ノ調書ニ基キテ準備手續ノ結果ヲ演述シ之ヲ材料トシテ法律上ノ口頭辯論ヲ爲スヘキモノトス之ヲ詳言スレハ準備手續ニ於ケル當事者ノ供述ハ勿論受命判事ノ面前ニ於テ口頭ヲ以テ爲スヘキモノナリト雖モ既ニ之ヲ調書ニ記載シテ其手續ヲ完結シタル以上ハ其調書ハ即チ受訴裁判所ニ於ケル口頭辯論及ヒ判決ノ材料タルヘキモノナレハ當事者其調書ニ記載セル事實ノ範圍内ニ於テ辯論ヲ爲スヘク受訴裁判所ハ同シク其調書ニ付キ所謂書面審理ヲ爲シ且法律上ノ論争ニ付キ判斷ヲ下シ以テ判決ヲ爲スヘキモノトス故ニ當事者ハ準備手續ニ於テ受命判事ノ調書ヲ以

準備手續ノ完結後原告若クハ被告カ受訴裁判所ニ於ケル口頭辯論ノ期日ニ出頭セサルトキハ必スシモ闕席判決ヲ爲スニ限ラス準備手續ニ於テ爭ナキ請求ニ付テハ當事者ノ孰レノ闕席スルヲ問ハス申立ナシト雖モ闕席判決ニ非サル一分判決ヲ爲シ他ノ爭アル請求ノミニ付キ申立ニ因リ通常ノ規定ニ從ヒ闕席判決ヲ爲スヘキモノトス(第二七一條第二項此場合ニ於テモ亦準備手續ニ於テ調書ヲ以テ明確ニシタル事項ノ範圍内ニ於テ闕席判決ヲ爲スヘキハ勿論ニシテ被告ノ闕席シタル場合ニ若シ原告カ第二百七十二條第二項ニ依リ新ナル事實上ノ供述ヲ爲シタルトキハ其供述ハ未タ被告ニ通知セサルモノナルヲ以テ被告ノ自白シタルモノト看做シ闕席判決ヲ爲スコトヲ得サルノミナラス若シ其新ナル供述アリタルカ爲メ必要ヲ生シタルトキハ再ヒ準備手續ヲ命スルコトヲ得ヘシ

尙ホ茲ニ注意スヘキハ原告若クハ被告カ準備手續終結後ノ口頭辯論ニ闕席シタル場合ニ於テ闕席判決ニ非サル一分判決ヲ爲スニハ準備手續ニ於テ訴訟ノ一部分タル請求其モノノ爭ハレサリシヲ必要ノ條件トスルコト是ナリ故ニ準備

流動公債ト確定公債ノ區別ハ單ニ期間ノ長短ヲ以テ之カ標準ト爲スコトヲ得ヌ又其期間ト雖モ固ヨリ其間ニ絕對ノ區別存セラルニハアラス蓋シ二者ノ區別ハ其期間ノ長短ノ外ニ其募集ノ目的其體様ノ性質等ニ於テ大ニ其趣ヲ異ニセラルモノアリ今二者ノ相異ナル點ノ重ナルモノヲ列舉スレハ次ノ如シ

第一 償還ノ時期ハ流動公債ニ在リテハ短期ニ限ラレ確定公債ニ在リテハ長期ヲ例ト爲シ時ニ無期ノ場合ナシトセス但シ其長期ト云ヒ短期ト云フハ相對的ノ語ナルハ前ニ述フル所ノ如シ

第二 起債ノ目的ハ流動公債ニ在リテハ國庫一時ノ不足ヲ補ヒ又ハ一年度ノ不足ヲ補フカ爲メ後年度ノ收入ヲ以テ之カ償還ヲ期シタルモノニシテ確定公債ニ在リテハ國家カ多少永續ノ行動ノ資ニ供スルモノニシテ短期ノ收入ヲ以テ償還ヲ期シ難ク又ハ短期間ノ償還ヲ以テ不利ト爲スモノナリ

第三 支拂請求權ノ擔保ハ流動公債ニ在リテハ期限其他ノ條件ニ於テ廣ク認メラルモノ確定公債ニ在リテハ支拂請求權ノ效力少ク時ニハ全ク支拂請求權ノ存在セサルコトアリ所謂支拂請求權ノ少キコトハ政府ノ信用上財政ノ整理

上最も便宜ト爲ス所ニシテ一方ニハ又債權者ニ於テ毫モ不利ヲ感セサル點カ
リトス

第四 元金利子ノ歩合其償還支拂等總テ公債ノ體様ニ關シテハ流動公債ニ在
リテハ變動常ナキヲ例トシ確定公債ニ在リテハ法規ノ下ニ其條件期限等明カニ
制定セラル是レ確定流動ノ名稱アル所以ニシテ所謂憲法第六十二條第三項ニ
於テ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘキ國債トハ國家自體ノ起債スル確定公債ヲ指スモ
ノニ外ナラサルナリ

第五 公債ノ性質ニ於テハ流動公債確定公債共ニ財政上ノ公債ナリト雖モ流
動公債ニ在リテハ別ニ國家行政上ノ目的ニ出ツル債務ヲ包括ス所謂行政上ノ
流動公債ト稱セラルモノ是ナリ

第二款 流動公債

第一項 行政上ノ流動公債

第一目 緒論

行政上ノ流動公債トハ其額ノ一定セズ期間ノ短期ニ限ラル等流動公債ノ特
質ヲ保有スルモ其公債自體ノ性質ハ以テ財政上一年度又ハ數年度ニ亘ル收支
ノ適合ヲ目的トスルニアラス其公債ハ政府カ財政上ノ機能ニ充ツルモノニア
ラスシテ單ニ行政上ノ目的ニ出ツルモノナリ故ニ其公債ノ數額及ヒ種類ハ其
行政ノ組織如何ニ存ジテ財政上ノ點ヨリ觀察スレハ全ク利害ノ外ニ超脱スル
モノナリ隨テ行政上ノ流動公債ハ本來收支適合論ノ下ニ論スヘヤモノニアラ
スシテ又通常世人ノ傳唱スル公債其モノニアラス單ニ行政上ノ目的ヨリ政府
カ負フ所ノ債務ナリトス

行政上ノ流動公債ニハ自働的ニ生スルモノト他働的ニ生スルモノトアリ自働
的ニ生スルモノハ身元保證金俸給差引預金積立金裁判上ノ保證金等ニシテ形
式實質共ニ行政上ノ公債タルモノ多シ他働的ニ生スルモノハ所謂郵便貯金郵
便生命保險郵便年金其他預金ノ類ニシテ形式上純然タル行政上ノ公債タルモ
實質上財政上ニ效果ヲ與フルコト尠シト爲ササルナリ

行政上ノ公債ニ付キ逐次之ヲ論述スルコトハ利益少ク且ツ本論ノ要旨トスル

所ニアラサルヲ以テ茲ニ身元保證金俸給差引預金及ヒ郵便貯金ニ付キ其大體ノ概念ヲ述フルニ止メントスモロイ欲ヤセハセシ
身元保證金ハ行政上ノ目的ヨリ主トシテ官吏ニ強制スル行政上ノ債務ナリ金銀物品ノ出納ヲ爲ス官吏其職務取扱上故意又ハ過失ニ因リ政府ニ損害ヲ生セシムルカ如キ官吏ノ賠償責任ノ擔保トシテ就職ノ際政府ニ納付セシムルモノニシテ其大小ハ一ニ職務ノ輕重種類ニ由リテ之ヲ定メ預金局ハ納付ノ日ヨリ一定ノ利子ヲ付セ退職後責任ノ解除ヲ待テ之ヲ併セ返還スルモノナリ但シ保證金ノ種類ハ現金ノ外ニ確實ナル有價證券ヲ許スヲ例ト爲セリ工事又ハ物品請負人ノ身元保證金ノ如キ又大體ニ於テ其趣ヲ一ニスルモノニシテ共ニ其額期間ノ變動常ナキ點ニ於テ行政上ノ流動公債タリ金銀物品ハ其趣ヲ一ニスルモノニシテ共ニ其俸給差引預金トハ官吏在職中其俸給ノ幾分ヲ控除シテ在職中政府之ヲ強制保管シ一定ノ利子ヲ附シ退官又ハ死亡ニ際シテ之ヲ返還スルモノナリ即チ俸給差引預金ノ本旨ハ官吏カ一旦職務ヲ離レシ場合ニ於ケル困難ヲ減輕スルニ在リテ一種有期ノ預金ト視ルコトヲ得ヘシ然レトモ此種ノ預金ハ拂戻ヨリ預入

ノ多キヲ原則ト爲スヲ以テ不意ニ巨額ノ差引ニ遇フノ危險少ク隨テ政府ハ實質上國庫融通ノ手段ニ供シ重ニ恩給資金トシテ之ヲ使用スルヲ常ト爲スモレナリ

第二目 郵便貯金

郵便貯金ハ行政上ノ公債ニシテ又實質上財政上ノ公債ノ效用ヲ爲スモノナリ蓋シ政府カ貯金ノ制度ヲ設ケシハ主トシテ國民ノ貯蓄心ヲ養成スルニ存ス故ニ貯金高ノ絶對的ノ増加ハ固ヨリ國家ノ望ム所ナリト雖モ相對的ノ増加トシテハ金額ノ大小即チ預入高ノ増加ヨリモ預金人ノ増加ヲ目的ト爲スモノナリ是レ一般ニ政府ノ貯金ニハ一人ノ預入額ニ制限ヲ附シ又其金利ノ歩合ハ常モ一般市場ノ金利ニ比シテ低下セル所以ナリ乃チ政府ハ營業トシテ無制限ノ預入ヲ許シ金利ヲ高メテ民間ノ貯蓄銀行又ハ普通銀行ノ預金ト競争スルノ意思ナキコト明カナリトス

我國郵便貯金ノ制度ニ依ルモ貯金ノ預入ハ一人一口ニ限ラレ預入制限高ハ

從來千圓ト爲セシヲ明治二十三年ヨリ五百圓トシ金利ノ如キモ明治八年ニハ三分ナリシカ一年毎ニ一分ヲ引上ケ明治十一年ニ至リテハ六分ト爲シタリ而シテ明治十四年ニ至リ之ヲ七分二厘ト爲シ明治十八年ニ及ヒテハ之ヲ復舊シテ六分ト爲シ翌年之ヲ四分二厘ニ引下ケ爾來此利率ヲ繼續シ遂ニ昨年四月ニ至リ六厘ノ引上ヲ斷行セリ而シテ此等ノ利子ハ常ニ當時ノ民間ノ利子ニ比スレハ常ニ平均二分ヨリ三分ノ低利ト爲セルモノナリハハハ政府ハ一般國民ノ貯蓄ノ念ヲ養成セントスルニ拘ラス金利ヲ低減シ預入高ニ制限ヲ置クハ一見相矛盾スルカ如キ觀ナレト爲ササレトモ蓋シ一方ニハ少クトモ政府ハ民間ノ銀行ト同一又ハ以上ノ利子ヲ以テ競争スルコトハ多額ノ支出超過ヲ豫期スルニアラサレハ事實困難ナルノミナラス別ニ此等ノ不利益ノ條件ト相殺スヘキ利益アル條件少シト爲サス今其重ナルモノヲ舉クレハ之ヲ絕對的ノ利益條件ト相對的ノ利益條件トニ區別スルコトヲ得ヘシ

第一 絕對的の利益條件 此ニ所謂絕對的の利益條件ト稱スルハ主トシテ其機關普及ノ點ニ在リ蓋シ民間ノ銀行ハ皆營利ヲ目的トスルモノナルヲ以テ其

取引高ノ稀少ナル所ニ之カ機關設備ノ普及ヲ見シコト固ヨリ期スヘカラス故ニ銀行ノ營利ノ方面ヨリ見レハ商工業ノ隆盛ナル都市ニノミ之カ機關ヲ設備センコト至當ノ事理ニ屬スト雖モ全國國民ヲ以テ貯蓄ノ念ヲ養成セシメントスル政府ノ方面ヨリ見レハ文化發達セス人口又稀少ナル地殊ニ居常財産ノ安全ヲ保シ難キ地ニ於テモ亦久シク之カ利便ヲ享有セシメスルハアラス然ルニ政府ハ都鄙ヲ通シテ全國ニ普ク郵便局ヲ施設シ其業務ノ傍貯金ノ事務ヲ附帶シテ經營スルヲ以テ僻陬ノ地ニ在ル者及ヒ臺灣ノ如キ財産ノ安全ニ付キ一般國民カ未タ危懼ノ念慮ヲ懷抱セル土地ニ在ル者ニ對シテハ重要ナル預金ノ機關タリ故ニ臺灣等ニ在リテハ現ニ預金セル預入人ノ職業別又ハ預入高ヲ見ルニ官吏及ヒ軍人ハ預入人ニ於テハ六割弱預入高ニ於テハ八割強ヲ占ムルヲ見ルナリ是レ少クトモ政府ハ民間ノ金融機關ノ設備ナキ地ニ於テ之カ制度ノ存在ノ必要ナルコトヲ證明スルモノナリトス

第二 相對的の利益條件 此ニ所謂相對的の利益條件トハ主トシテ國家ノ信用ヲ指スモノナリ蓋シ民間ノ銀行ト政府ト相對照スレハ確實安全ノ點ニ於テ

ハ政府ハ迄ニ勝ル所アルノミナラス未タ信用經濟ニ慣レサル階級及ヒ政府ニ對シテ絕對の信用ヲ置ク階級ハ何レノ時ト所ヲ問ハス存在スヘキノミナラス又利子ノ多少ニ付テ利害關係ヲ置カサル者モ亦少シト爲ナス此等ノ團體ニハ下級團體ニ於テ殊ニ多ク又農業者官吏軍人等ノ多數ヲ占ムルモノナリ而シテ此等ノ團體ハ決シテ文化ノ進歩ニ伴ヒ減少セラレヘキモノニアラサルヲ以テ苟モ國家自體ニシテ信用ヲ失フニアラスンハ必スヤ國家ノ信用ヲ基礎トシテ或一部階級ノ貯金ニ對スル唯一ノ機關タラスンハアラサルナリ利子歩合ノ低減ト預入高ノ制限ハ已ニ述ヘタル如ク決シテ貯金制度ニ於テ矛盾スル所アルヲ見サルノミナラス事實問題トシテ至當ノ事理ニ屬スルモノナリ隨テ利子歩合ハ常ニ市場金利一般ノ趨勢ニ伴ヒ昇降スヘキモ常ニ必スシモ一定ノ比率ヲ以テ朝令暮改スルノ要ヲ見ス是レ事務ノ進捗上重大ナル阻礙ヲ與フルノミナラス金利ハ常ニ一時ノ幻影トシテ高低常ナラサルモノナルヲ以テ全局ニ通シ大勢ノ趨勢所ニ從ヒ慎重ナル措置ヲ爲スコトヲ要ス是レ延テハ政府ノ威信ヲ損セ却テ反面ヨリ金融界ノ動搖ヲ誘導スルモノナレハナリ又預

入高ノ制限ニ付テハ強ヒテ之ヲ存スヘキ理由ハ之ヲ見ルニ難ク唯貯金制度ハ國民貯蓄心ノ養成ノ爲メ多少ノ支出超過ヲ甘シテ經營スル所ニ係ルヲ以テ巨額ノ貯金ヲ爲スモノハ又一定ノ額以上特ニ之ヲ保護獎勵スルノ要ナシ又之カ負擔ノ増加ニ堪ヘサル所ナリト云フニ存スルナルヘシ然レトモ一方ニハ貯金制度ハ必ス支出超過ヲ豫期スヘカラス必スヤ利子ノ歩合貯金ノ利用貯金事務ノ經費等ノ上ニ於テ斟酌ヲ加ヘ之カ多少ノ收入超過ヲ豫期スヘキモノナレハ一定ノ制限高以上ノ預金ニ付テハ少クトモ積極ニ弊害アルモノト謂フヘカラス近時各國ニ於テモ多クハ其制限ヲ解除シテ一方ニハ定額以上ノ預金ニ對シテハ利子ノ歩合ヲ減少スルコトトナシ或ハ其制限ヲ形式上解除セサルモ別ニ公債證書ノ購入保管制度ヲ開始シ以テ預高制限法ヲ實質ニ於テ破ルニ至レリ乃チ貯金預入ハ貯金ノ全部又ハ一部ヲ以テ政府ニ公債證書ノ購入及ヒ保管ヲ委託シ其證書ノ通數ニハ制限ヲ設ケサルヲ以テ公債證書ニ變形スルコトヲ條件トシテ無制限ニ預入ヲ爲シ得ルコトト爲レリ蓋シ政府ノ預リ金ハ受動的ノ國債ニシテ一方ニハ之ヲ流用シテ短期國債ノ募集ノ費用ト手數ヲ省畧シ得ヘ

キモノナルト同時ニ一方ニハ政府ノ意ヲ以テ之ヲ増減スルコトヲ得ヌ國家信用墜落セル時又ハ國民一般ニ預金拂戻ノ必要切迫スル時ハ一時ニ巨額ノ拂戻請求ニ遭遇スルコトナキヲ保セサルナリ故ニ之ニ對シテ公債證書購入保管ノ途ヲ開ケハ預金人ハ公債ノ利子ハ預入金ノ利子ヨリ多キヲ以テ益之カ貯蓄心ヲ増シ一方ニハ僻陬ノ地ニ居住スル者ヲシテ公債證書購入ノ便法ト爲ルヲ以テ益預リ金ヲ増加シ而モ政府ハ預金ヲ減少スルヲ以テ拂戻ノ請求ニ應スル克ハサルノ窮況ニ陥ルノ憂ナク又預入金ヲ公債證書ニ變更セシニ由リ其元金ヲ支拂フコトヲ要セサルヲ以テ他ノ公債證書ヲ償還セハ之カ爲メニ公債ヲ増加スルノ憂ナク流動公債ヲ減シテ確定公債ヲ増シ公債ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルコトヲ得ヘシ

我國ニテモ明治二十三年ヨリ公債證書購入保管ノ制ヲ施行シ三十年度ニ於テハ既ニ委託者二千九百餘人購入保管ノ額而現在高百二十三萬圓ニ上ルニ至レリ今後此方法ノ世人ニ周知セラルルニ隨ヒ蓋シ長足ノ進歩ヲ爲スヘキモノナルヘシ

貯金ハ政府行政上ノ一手段トシテ必要ナルコト上述スル所ノ如シ殊ニ近時國家社會主義ノ熾盛ニ赴クト共ニ下級社會殊ニ勞働者ニ對シテハ強制的預入ノ制ヲ唱道スル者多ク工場條例其他勞働者ノ保護取締ニ關スル法令ニ於テ又各種ノ制度ニ依リ此主旨ヲ遂行セル者尠シト爲サス殊ニ英國始メ歐米諸國ニ於テハ又近時郵便貯金年金ノ制度ヲ設ケシモノアリ其概念ニ付テハ別ニ確定公債ノ綱目ノ下ニ叙述スヘキ機會アレハ此ニ之ヲ略ス

郵便貯金獎勵ノ方法トシテ文書又ハ口述ニ依リ獎勵及ヒ勸誘ハ各國ヲ通シテ行ハルル所ナレトモ別ニ貯金ノ取扱ニ關シテハ或ハ印紙稅ヲ免除シ或ハ一定ノ限度以内ノ貯金ニ對シテハ差押ヲ免除スル等各種ノ特權ヲ付與スル者アリ近時又別ニ一定ノ金額以上預入ヲ爲セシ者ニ對シテ割増金ヲ付與スルコトアリ現ニ羽陽貯蓄銀行ノ如キ其例ヲ取ル者ナルコトヲ聞ケリ蓋シ割増金付與ノ方法ハ富饒ノ一變形ニシテ各國財政ノ整理セシ國ニ在リテハ法文ノ明カニ禁スル所タリ現ニ我勸業銀行ノ割増金附社債ニ付テモ學說ノ之ヲ非難スル者少シト爲サス其詳論ハ確定公債ノ節ニ叙述スル所アルヘシ況ヤ

貯金ノ如キハ其名ノ示スカ如ク國民ノ貯蓄心ヲ養成セントスルモノナリ換言スレハ國民ノ投機心ヲ抑壓セントスルモノナリ故ニ事實割増方法ノ程度論ニ飯スヘキモ大體ニ於テ單ニ預入高ノ多キヲ目的トスレハ割増金付與ノ方法ハ或ハ良策タルヘキモ貯金本來ノ精神ヨリ云ヘハ自殺ヲ爲スノ手段ト謂ハスンハアラナルナリ

郵便貯金ハ其預入拂戻ハ大體ニ於テ變動少ク國庫ハ融通上大ナル利益ヲ得ルモノナリ現時我國ノ郵便貯金ハ未タ海外諸國ニ比シテ幼稚ナルモノナレトモ年年其歩武ヲ進メ一方ニハ民間ノ銀行殊ニ貯蓄銀行ハ各所ニ増設セラレシヲ見ルモ國民全體ニ通シテ其發達ノ程度更ニ大ナルヘキコト論ナク政府貯金ノ一部ハ又民間銀行ノ手ニ吸收セラレシモノ少シト爲ナス蓋シ郵便貯金ノ預入拂戻ノ狀況ハ等シク經濟界ノ變動ニ伴フモノニシテ戰時事變ニ際シテハ殊ニ此影響ヲ貯金ノ上ニ認ムルコトヲ得ヘシ即チ我國ニ於テモ近時貯金ノ發達ハ一定ノ比率ヲ以テ其歩武ヲ進メシニ拘ラス日清戰爭ノ開始セラルルト共ニ斯業ノ進歩ニ對シ著シキ變調ヲ呈シタリ今預金現時ノ狀況ト戰爭前後ノ關係ヲ

統計ニ依リテ示セハ左ノ如シ

年 度	預 入 額	拂 戻 額	現 在 額	預入一人ノ平均額	人口百人ニ對スル預入員
二十五年	一二,九五四,五七七	一一,四七三,六三八	二二,八二六,〇六〇	二四,〇〇八	二
二十六年	一五,五三二,一九一	一二,〇二七,五二二	二六,一五五,四九八	二四,六六七	三
二十七年	一四,五八九,一九一	一四,七七三,〇九三	二五,九〇一,三三四	二三,三六三	三
二十八年	一八,三二七,七九二	一五,二六三,六九〇	二八,九六五,四二七	二三,六八三	三
二十九年	一七,〇八一,九一一	一七,八三〇,二〇〇	二八,二五一,一九七	二二,一八六	三
三十年	一三,六七四,五三七	一七,三四〇,七〇五	二五,七五四,二五六	二〇,五四三	三

第二項 財政上ノ流動公債

第一目 緒 論

流動公債ノ主要ナル部分ハ財政上ノ流動公債ニ存シ財政上ノ流動公債ノ主要ナル部分ハ短期公債ニ存ス蓋シ短期ノ公債ハ歲計上一時ノ歲入不足即チ收入ニ先テテ支出ヲ要スヘキ所謂金庫上ノ不足又ハ歲入ノ減少若クハ臨時ノ歲出

等ノ爲メ一年度ノ收支相償ハナル場合即チ所謂真正ノ不足アルニ際シ一年度内又ハ三四年度ニ之カ償還ヲ期シ其年度ノ歲計ヲ結了スルヲ目的ト爲スモノナリ隨テ其不足ノ多寡ニ伴ヒ之カ公債發行額亦増減セラルルモノニヤテ所謂流動公債ノ名稱アル所以ナリ

蓋シ政府ノ歲計豫算ハ過去現在ヨリ未來ヲ付度シ其年度ノ收支ノ狀況ヲ精査シ以テ此カ適合ヲ計ルモノナルヲ以テ主觀的ニ歲計豫算ニ重大ナル過誤アルカ客觀的ニ豫期スヘカラサル異常ノ事變發生スルニ非スンハ年度ノ終ニ於テ大ナル過不足ヲ生スルコトナキモノナリ然ルニ同一年度内ニ於テ收入カ常ニ支出ニ先ツモノニ非スシテ一方ニハ俸給給與公債利子等支出ノ時期確定セルモノノ外ニ天變其他豫期スヘカラサル事變ノ爲メ軍事警察其他衛生植栽土木等ノ內務行政ニ於テ不慮ノ支出ヲ要スル場合アリ殊ニ國家自ラ諸般ノ營業ニ從事シ又地方行政體ニ對シテ資金ノ貸主タル地位ニ在ルヨリ豫算外ノ臨時支出ヲ爲スコト多キ佛蘭西ノ如キアリ而シテ一方ニハ經常收入ノ大部ハ常ニ一定ノ期限ヲ埃テテ始メテ國庫收容セラルルモノナルヲ

以テ結局其支出巨額ニ失スルコトナクシテ其年度間ノ收入ヲ以テ之カ適合ヲ計リ得ヘキモノモ時期相前後スルカ爲メニ一時資金ノ必要ヲ見ルコトアリ殊ニ經費論ニ於テ物品費ト稱セラルルモノハ物價ノ高低ニ因リテ常ニ之カ費額ヲ消長スルモノナルヲ以テ物價其物ノ變動ニ伴ヒ收支ノ不適合ヲ來スコト最も多クシテ所謂真正ノ不足ヲ生スルコト少シト爲ナス然レトモ其額ハ未タ確定公債ニ依ルノ要ヲ見ルコトナク三四年間ニ於テ此ヲ償還スルコトヲ豫期セ得ヘキ場合アリ總テ此等ノ場合ニハ或ハ特別借入ヲ爲シ或ハ紙幣ヲ發行シ或ハ短期公債ヲ發行シ以テ此カ收支ノ適合ヲ計ルヘキコト最も便宜ナル手段ト謂フヘキナリ

流動公債殊ニ財政上ノ流動公債カ財産上必要ノ手段タルコト正ニ上述スル所ノ如シ殊ニ一般ニ短期ノ公債ナルヲ以テ利子ハ確定公債ニ比シテ遙ニ低ク而シテ一方ニハ普通ノ指名債權ト異ナリテ賣買移轉ノ自由アルヲ以テ國民ハ放銀ノ手段トシテ最も歡迎スル所タリ

然レトモ流動公債ニ伴フ通弊ハ此カ濫用ニ在リ若シ十分ノ成算ナクシテ流動

公債ヲ増發スレハ其償還期限ノ短期ナルニ由リ其害毒又確定公債ニ比シテ大ナルモノアリ彼ノ佛蘭西ノ千八百四十八年ニ於ケル流動公債ノ如キ其適例ヲ示スモノナリ彼ノ財政紊亂セル西班牙、土耳其、埃及ノ如キニ至リテハ其害毒皆官ニ入リテ又之ヲ救済スルニ由ナキモノノ如シ故ニ流動公債ハ常ニ成ルヘク狹隘ノ範圍内ニ限リ普通ノ行政事務費ノ如キ其年以内ニ支辨シ盡シテ負擔ヲ後ニ殘スコトナカラズ貯蓄銀行ニ對スル預金地方行政體ニ對スル貸金ノ如キハ別途ノ會計トシテ取扱ヒ後者ノ如キハ之ヲ確定公債ニ組入ルルヲ可トス「バスタープ」氏ノ如キハ流動公債ノ額ハ須タ確定公債ニ對スル一年ノ利子ヲ超過スヘカラス若シ確定公債ノ甚タ少額ナル處ニ在リテハ流動公債ハ歳入ノ四分ノ一ヲ超過スヘカラスト論セリ

蓋シ短期公債ハ收支ノ適合其序ヲ失フカ或ハ民力ノ疲弊其他天災地變ノ爲メ豫定ノ收入ヲ得ル能ハサルカ或ハ政府ノ信用薄弱ナルニ由リ普通ノ公債ヲ募集シ能ハサル等財政上不幸ナル現象ニ起因スルモノニシテ革命前ノ佛蘭西、西班牙、土耳其、埃及等ノ如キ何レモ此等諸原因ノ爲メ一時ノ急ヲ支フ

ルニ切ナルノ餘或ハ擔保ヲ附シ或ハ特權ヲ附與シ或ハ非常高利ヲ附シテ密ニ特別借入ヲ爲シ其期間ノ僅僅數箇月ニ過キサル短期ノ借入ニ一割五分ヨリ二割五分ニ至ル高利ヲ附セシ例少シト爲サス隨テ償還期限ノ到來共ニ借繼ヲ爲スヲ例ト爲シ年歲歲新舊相累計シテ又拾收スヘカラサルニ至ル西曆千八百七十四年債權國ノ委員等土耳其ノ流動公債ヲ調査セントシテ竟ニ其額ヲ知ル克ハサルニ至リシカ如キ又其一例ニシテ又彼ノ埃及ニ於ケル場合ノ如キ既ニ本章第三節第四款ニ於テ叙述セル所ノ如シ

本項ノ分類ニ付テハ先ニ短期借入、大藏省證券及ヒ紙幣ノ三種ヲ掲ケ特ニ短期公債ニ付テ舉クル所ナシ蓋シ短期公債ハ有期確定公債ト殆ト其趣ラ「一」ニシ唯其期間ノ長短ニ於テ特徵アルニ過キサルノミナラス所謂大藏省證券ハ短期公債ノ一種ニシテ又事實大部ヲ占ムルモノナルヲ以テノ故ノミ敢テ大藏省以外ノ短期公債ヲ認メサルニハ非サルナリ本項ニ於テハ短期借入ハ第三節第二款ノ第二項契約公債ノ下ニ於テ既ニ其大要ヲ掲ケタレハ茲ニハ主トシテ大藏省證券及ヒ紙幣ニ付キ叙述スル所アラントス

第二目 大藏省證券

大藏省證券トハ出納上一時使用ノ爲メ大藏省ニ由リ發行スルモノト明治十七年九月二十四號布告第一條參照大藏省證券ノ大藏省紙幣ト異ナルハ猶ホ商業手形ノ銀行紙幣ニ於ケルカ如シ大藏省又ハ銀行ノ紙幣ハ正貨ノ代用トシテ日用ノ流通ヲ資タルヲ目的トス其流通ノ機能ヲ全クスル所以ノモノハ常ニ正貨ト兌換ナレ得ル條件ヲ具アレハナリ商業手形又ハ大藏省證券ハ彼ノ確定證券抵當貸付及ヒ其他此種類ノ他ノ證券ト異ナリ一時ノ放銀ノ爲メニ流用セララルモノナリ大藏省證券カ利子ヲ拂フハ短期貸付ニ於ケル利子ノ性質ヲ有シ即チ割引タルノ特色ヲ帶フ是レ長期貸付ノ利子ト相異ナル所以ナリ大藏省證券ノ發行ハ確定公債ノ如ク募集ノ方法ニ由ルコトアリ或ハ政府カ支拂ニ當リ貨幣ノ代リニ之ヲ受取ラシムルコトアリ該證券ハ多ク二三ノ銀行ヨリ借入ラルヲ常トスルカ故ニ特別借入ト相似タル所アレトモ大藏省證券ハ何人ニテモ之ヲ授受賣買スルコトヲ得同布告第五條參照又其支拂ニ對シテ貨幣ノ代リニ

證券ノ引受ヲ爲サシムル點ニ於テ異ナリ又其金額ハ毎年不足ノ多寡ニ伴フヲ一定スル所ナク又之ヲ截フニ經常收入ヲ以テスル點ニ於テ確定公債ト異ナリ該證券ハ往時英國財政家ノ發明スル所ニシテ今日ハ各國皆此制ニ則リ財政ノ整理ヲ計ルニ至レリ是レ收支ノ時期ノ不適合ハ免レサルノ數ナルヲ以テ其度度現金ナキノ故ヲ以テ支拂ヲ停止スルノ不便ヲ避ケ一方ニハ短期內ニ償却シ得ルヲ原則ト爲スヲ以テ確定公債ヲ起スノ煩ヲ避タルニ在ルハ先ニ敘述セル所ノ如シ我邦モ明治十七年九月第二十四號布告ヲ以テ大藏省證券條例ヲ發布シ其支拂期日償還ノ方法發行金額及ヒ利子金額等ハ豫メ規定セラル即チ無記名利附定期拂トシ其發行シタル年度ノ歲入ヲ以テ支拂フコトト爲レリ同布告第二條參照隨テ人民ハ一時不用ナル資金ノ放銀物トシテ確實且ツ便利ナルカ故ニ此カ授受賣買又盛ニ行ハル支拂期限ハ通常三月六月九月十二月等ト爲スヲ例ト爲シ英佛等ニテハ一箇年ヲ超過スルモノ少カラズクリミヤ戰爭ノ當時英國カ五箇年ヲ期間トセル大藏省證券ヲ發行セシハ本論ノ首メニ於テ既ニ叙述セル所ナリ而シテ通常六箇月以下ノモノニ對シテハ利子ヲ附スル代リニ割

引ヲ爲スヲ例ト爲セリ現行法ハ證券額面高ヲ百圓五百圓千圓五千圓一萬圓及
 十萬圓ノ六種ニ分テ其支拂期限ハ十二箇月以內ト爲シ同布告第四條參照其
 支拂及ヒ引換ニ關スル事務ハ日本銀行ニ於テ之ヲ取扱ハシム同布告第六條
 參照

大藏省證券ハ財政上便利ナル方便ナリト雖モ物品買上ニ際シ該券ヲ以テ交付
 スルハ結局政府ノ不利益ヲ來スヘキコトハ本章第四節第一款第一項中支拂強
 制公債ニ付テ論スル所ト相同シ而シテ現行法モ上述セル該券濫發ノ通弊ヲ制
 止センカ爲メ明治二十二年二月法律第四號會計法第九條ハ明カニ毎年度大藏
 省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ムル旨ヲ規定シ明治三十
 二年二月二十二日公布ノ明治三十二年度ノ豫算第四條ハ其最高額ヲ三千五百
 萬圓ニ限レリ

大藏省證券ニ付テ最モ歴史ヲ有スルハ英佛ノ二國トス此等ノ國ニ在リテハ
 漸次年ヲ逐フテ其額ヲ減少シ整理ノ歩武ヲ進ムルヲ見ル殊ニ英國ニ於テハ
 西曆千六百九十一年ヨリ千七百十一年マテハ流動公債ハ常ニ確定公債ノ額

ニ超過セシモ千七百十二年以後ハ確定公債ノ額ニ下リ千七百五十五年ノ如
 キ其高大ニ減少シタ僅ニ七百三十六萬五千圓ニ過キタモ然レトモ千八百
 七年ヨリ千八百十九年ニ至ル維納會議ノ前後ハ再ヒ増加シテ四億圓ヲ昇降
 シ其後千八百四十年マテハ二億圓ニ上下シ其後千八百六十二年マテハ一億
 六千萬圓ト二億圓ノ間ヲ昇降セリ但シクリミア戰爭ノ時ハ二億八千萬圓ニ
 上レリ爾後漸次減少シテ八千萬圓ヲ上ルコトナク率テ千八百七十四年ニハ
 四千四百八十萬圓ト爲リ僅ニ確定公債ノ十分ノ五ヲ占ムルニ過キタリ然
 レトモ其後漸次再ヒ上騰シテ千八百七十七年ニハ一億四千萬圓ト爲レリ是
 レ露土戰爭蘇士運河株券四千萬圓ノ買收等ニ起因スルモノニシテ其後印度
 亞弗利加等ノ事變ニ因リ尙ホ多少増加スルニ至レリ蓋シ英國ノ大藏省證券
 ハ數年ニ亘ルモノ多ク我國ト大ニ越テ異ニスル所アリトス
 佛國ニテハルイ、フヒリツブ、ア時代ニ流動公債大藏證券及ヒ貯蓄銀行ノ預リ
 金ハ一億圓ヨリ三億圓ニ上リ西曆千八百四十八年ニハ革命政府之ニ代リテ
 又此カ處分ニ窮シ銀行預金ノ拂戻ヲ減センカ爲メニ其利子ヲ五分ト爲セシ

モ尙ホ此カ拂戻ヲ停止スルコト能ハス途ニ之ニ對シテ公債證書又ハ大藏省證券ヲ付與シ尙ホ大藏省證券ノ期限ヲ延長シタリ然レトモ此發行價格ト價值却價格トノ差異ヨリ生スル利益ハ證書組換ニ因リテ直チニ現金ヲ得ル能ハサルノ不利益ト相償フニ足ラス大ニ人民ノ不平ヲ喚起シ政府財政ノ失態ヲ重スルニ至レリ其後尙ホ流動公債ノ總額ニ至リテハ千八百六十四年ノ如キ四億圓ヲ上リ千八百七十年ニハ猶ホ三億圓ヲ上下シタリ然レトモ大藏省證券ハ千八百四十八年ニハ一億一千三百萬圓ナリモ千八百七十年ニハ三千六百萬圓千八百七十八年ニハ七百萬圓ト爲リ近時大藏省證券ハ人民ニ於テモ大ニ其利便ヲ感シ利子ハ期限ノ長短ニ由リ半朱ヨリ一朱マテニ自由ニ發行スルコトヲ得ルニ至レリ

蓋シ此種ノ流動公債ハ通常公債ヨリモ預ケ人カ現金取得上ノ便アルニ由リ低キ利子ヲ以テ發行スルコトヲ得若シ此制ヲ全廢セシムハ財政上必ス別ニ相當ノ準備ヲ要スルカ又ハ年年相應ノ歳入剩餘ヲ殘タスルハ非ス然ルニ國庫準備金ノ弊害ハ既ニ第一章ニ於テ詳論スル所ニシテ此カ爲メニ永ク租額

ヲ重課スルノ弊害ハ元利償却ノ爲メ一時租額ヲ増スノ弊害ニ比シテ遙ニ大ナルモノナリトス

第三目 紙幣

紙幣ハ或ハ本紙幣ト準紙幣ニ分ナ本紙幣ヲ一ニ狹義ノ紙幣國家紙幣又ハ本位紙幣ト稱シテ硬貨ノ代用ヲ爲ス價格ノ表章ヲ爲ス物ヲ指シ紙ヲ以テ作り強制的ニ通用シテ兌換ナキモノナリ所謂不換紙幣ト稱スルモノニシテ既ニ本章第四節第二款第二項強制公債ノ下ニ詳述セシ所ナリ

準紙幣ハ紙ニテ作り價格ノ表章タルニ於テ一ナリト雖モ強制シテ通用セサルモノニシテ兌換シ得ヘキモノナリ不換紙幣ト準紙幣ノ中間ニ強制的ニ通用セサル不換紙幣ト強制的ニ通用スル兌換紙幣トニアリ共ニ準紙幣ト稱スルヲ例ト爲ス然レトモ通用ノ強制力ヲ有スルモノハ本紙幣ト同様ノ性質ヲ有スルモノニシテ等シク間接ノ強制公債タルヘキナリ其孰レニ屬スルヲ問ハズ其金額ノ増減常ナク發行者ノ希望ハ短期間ニ同收スルニ在リテハ一ナルヲ以テ共ニ

流動公債タルコトヲ妨ケサルナリ
 準紙幣ハ流通ノ強制力ナキカ兌換ノ義務アルカ又ハ二者ヲ兼有スル紙幣ナル
 ヲ以テ何レモ外面上銀行手形ノ性質ヲ有スルモノナリ然レトモ其發行者ヲ異
 ニシ且ツ其發行ノ制限ハ最モ注意ヲ要スルモノナリ兌換準備金ヲシテ紙幣ト
 同額ナラシムルハ特ニ兌換紙幣其モノヲ發行スル效果ヲ失ハシムルモノニ外
 ナラス又準備少キニ失スルカ又ハ少キニ失スルコトナキモ正貨ヲ以テセサル
 トキハ一朝事變ニ際シテ兌換ノ請求ニ應スルコト能ハス國家ノ信用ヲ失墜セ
 シムルニ至ルヘシ即チ兌換紙幣發行法ノ問題ハ財政上重要ニシテ研究ノ必要
 大ナルモ由來貨幣論ノ主トシテ論究スヘキモノナレハ此ヲ略シ唯我邦現行ノ
 兌換紙幣發行法ノ大要ヲ述フルニ止メントス
 兌換紙幣發行權ハ日本銀行條例第十四條ニ依リ日本銀行之ヲ有ス其細則ハ舉
 ケテ明治十七年五月第十八號布告十八年第九號布告二十一年勅令第五十九號
 二十三年法律第三十四號及三十年法律第十八號ニ在リ兌換紙幣ノ兌換正貨
 ハ金貨ニ限ラレ兌換銀行券條例第一條合法貨幣トシテ租稅海關稅其他一切ノ

取引ニ通用スルコトヲ得同第四條但シ引換ハ日本銀行ニ於テ營業時間中之ニ
 應シ唯支店ニテハ本店ヨリ準備金ノ到達スヘキ時間ノ延期ヲ爲スコトヲ得同
 第六條若シ反對ニ金貨ヲ以テ兌換券ト引換ヘシコトヲ請フ者アルトキハ無手
 數料ニテ之ニ應スルモノトス同第七條其種類ハ一圓五圓拾圓貳拾圓五拾圓百
 圓二百圓ノ七種ニシテ同第三條其發行額引換準備ノ規定ハ兌換銀行券條例第
 二條ニ定ムル所タリ即チ
 日本銀行ハ兌換銀行發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及ヒ地金銀ヲ置キ其引換準
 備ニ充ツヘシ但シ銀貨及ヒ銀地金ハ引換準備總額四分ノ一ヲ超過スルコト
 ヲ得ス
 日本銀行ハ前項ノ外特ニ一億二千萬圓ヲ限リ政府發行ノ公債證書大藏省證
 券其他確實ナル證券又ハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ
 得但シ本項一億二千萬圓ノ内二千七百萬圓ハ明治二十二年一月一日以降ニ
 係ル國立銀行紙幣ノ消却高ヲ限リ漸次發行スルモノトス
 日本銀行ハ市場ノ景況ニ依リ流通貨幣ノ増加ヲ必要ト認ムルトキハ大藏大

臣ノ許可ヲ得テ前二項發行高ノ外更ニ政府發行公債證券大藏省證券其他諸實ナル證券若シハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得此場合ニ於テハ其發行額ニ對シ一箇年百分ノ五ヲ下ラサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ但シ其割合ハ其時時大藏大臣之ヲ定ム

即チ獨逸制ニ據シテ又之ニ勝レリト爲ス所ニシテ金貨金地金四分ノ一マデハ銀貨銀金地金ニラモ宜シノ引換準備ニ對シテハ固ヨリ無制限トシ政府發行ノ公債證券大藏省證券其他諸實ナル證券又ハ商業手形ノ保證ニ對シテハ九千三百萬圓ハ絕對的ニ許サレ二千七百萬圓ハ二十二年以降ノ國立銀行紙幣ノ消却高ヲ限度トシテ許サレ其以上ハ大藏省ノ許可ト五分以上ノ發行稅ヲ條件トシテ許可セララルモノト爲スナリ

兌換紙幣發行額引換準備ニ付キ一言注意ヲ要スヘキハ明治三十一年四月在來ノ制限高八千五百萬圓ヲ擴張シテ一億二千萬圓ト爲シ而モ爾後今日ニ至ルマデ猶ホ舊ニ依リテ擴張制限外ノ發行ヲ爲スコト是ナリ

由來制限額ヲ擴張セルハ在來ノ制限ノ下ニ在リテハ勢ヒ制限外ノ發行ヲ防

止スルコト能ハサルヲ以テ此ハ如キ異例ノ發行ヲ來スヘキ場合ヲ誠意セン

「スル」ニ在ルコト固ヨリ言テ據タル所ニシテ若シ制限外ノ發行カ平時相次テ起ルトキハ所謂制限外ノ制限外タル所以ハモノ根本ヨリ破却セラレ毫モ亦制限其モノヲ認ムルノ要ナキニ至ルヘシ之ヲ歐洲ニ於ケル重ナル實例ニ徵スルモ英國ニ在リテハ現行兌換銀行券條例ハ一千八百四十四年ノ制定ニ據リ今日ニ至ルマデ六十年ニ近キ歲月ニ於テ條例ノ停止(即チ兌換ノ停止ヲ爲セルコト)斷後三回ニ止マリ英國銀行カ制限外ノ發行ヲ爲セルハ一千八百五十七年ニ於テ斷後唯一回ヲ見ルニ止マリ爾後四十餘年又制限外ノ發行ヲ見ルコトナシ又獨逸ニ於テハ一千八百七十五年帝國銀行條例制定モラレテヨリ今日ニ至ルマデ二十有五年ノ間未タ一回モ制限外ノ發行ヲ見タルコトナシ然ルニ我邦ニ在リテハ明治十七年制定後明治二十三年四月ノ變五分利附五十萬圓ノ制限外發行アリ二十七年十二月二十九日第二次ノ制限外發行ヲ爲セシヨリ年々又制限外ノ發行ヲ見サルコトナク三十年ニ於テ發初メ六分利附ニテ尙ホ五千萬圓ニ近キ發行ヲ爲シ爾後八千五百萬圓ノ制

限ヲ一億二千萬圓ニ増加セシメ拘ラヌ尙ホ制限外ノ發行ヲ見サレドナシ
蓋シ此ノ如キ喜フヘカヲナル現象ヲ見ル所以ノモノハ一ニ制限高ノ高低ヲ
以テ直チニ制限外ノ發行ヲ左右スヘキ唯一ノ方策ナリト解限セル結果ニ外
ナラスシテ制限外ノ發行ヲ左右スヘキ眞ノ動力ハ制限外ノ發行額ニ課スヘ
キ發行税ノ高低ニ存スルコトヲ忘却セルモノナリトス換言スレバ制限外ノ
發行ヲ爲スハ金融逼迫ノ爲メニ生スヘキ經濟界ノ害毒ヲ救正スル手段タル
カ故ニ我國ノ如ク居常金利ノ六分内外ヲ昇降スル經濟界ニ於テ五分以上ノ
發行税ヲ條件ト爲ストキハ居常尙ホ日本銀行ハ制限外ノ發行ヲ爲シテ市場
ノ金利ト發行税ノ差額ニ因リ多少ノ收益ヲ得ヘク所謂金融逼迫ノ際ニ於ケ
ル救正方法タル非常手段ヲシテ平素濫用セシムルニ途ヲ開ケルモノニ外ナ
ラス即チ歐洲列國ノ如キ平時ノ金利カ二分内外ヲ昇降スル經濟界ニ於テ五
分以上ノ發行税ニ甘シテ尙ホ制限外ノ發行ヲ爲スハ必ズヤ金利ハ少クトモ
五分以上ニ昇騰シタル金融逼迫ノ秋ニ外ナラサルヘキ我邦ノ如キ五分以
上ノ金利ヲ以テ平時ノ常況ト爲ス經濟界ニ於テ等シク五分以上ノ發行税ヲ

條件ト爲スハ權衡ヲ失スルノ甚シキモノニシテ之ヲ歐洲各國ノ立法例及
實際ニ對照シテ發行税ヲ少クトモ一割以上ト爲スニ非スルハ所謂非常手段
ノ非常手段タル效果ヲ保持スルニ由ナク事實金融逼迫シテ爲メニ制限外ノ
發行ヲ要スルカ如キ場合ニ至ラサルモ漫然一部起業家ノ要求ニ驅ラレ自己
ノ多少ノ收益ニ眩惑シ制限外ノ發行ヲ濫用スルニ至ルハ又毫モ怪シムニ足
ラサル所ナリトス

第三款 確定公債

第一項 緒論

軍稅論カ租稅制度トシテ實際理論共ニ不可ナルカ如ク國家財政上單一ナル公
債ノミニ依リテ收支ノ適合ヲ計ルコトハ又等シク事理ヲ得タルモノニ非ズ流
動公債ト曰ヒ確定公債ト曰フ各特有ノ長處アリ二者其一ヲ捨ツヘカラス宜シ
ク臨時支出ノ性質ト財政ノ狀況ニ應ジ其間ニ權衡ヲ保持シ斟酌ヲ加フルコト
財政整理上重要ナル事項ニ屬セリ

確定公債ノ流動公債ニ歸レル點ハ其期限ノ長期ナルト其償還ニ急切ヲ要セス
裁量ノ餘地多キヲ以テ國庫ノ急迫ヲ告ぐるコトナキニ在リ國家ハ信用ヲ失墜
シ市場ノ恐慌ヲ來スル患ハ常ニ短期ノ公債ニ於テ之ヲ見ルコト多ク殊ニ兌換
紙幣等ニ於テ然リト爲ス然レドモ公債ノ一部ニ偏重スルハ固ヨリ喜マベキ現
象ニ非ス其借用期限ノ長期ナルニ安ンデ此カ償還ヲ等閑ニ付シ逐次累積シ
テ後世ノ負擔ヲ大ニスルニ至レハ率テ國家ノ信用ヲ削キ公債ノ發達進步ヲ阻
害スルコト又言フ埃タナルナリ

蓋シ確定公債ハ唯リ財政上政府ノ信用ニ止マラス一國ノ信用ヲ利用スルモノ
ニシテ國民ノ負擔力ト密接ノ關係ヲ有スルモノナリ蓋シ其國民ノ負擔額ニ至
リテハ確定公債ノ總額ノ大小政府ノ收入額ト國民ノ收入額ノ比例確定公債ノ
利子ト市場利子ノ比率等ヲ標準トシ之ヲ各種ノ方面ヨリ觀察スルコトヲ要ス
ヘキモ結局確定公債カ人民ノ負擔ヲ増スハ明カナルヲ以テ現時ノ立憲國ニ在
リテハ何レモ憲法ニ依リ帝國議會ニ確定公債募集許否ノ權ヲ留保スルヲ例ト
爲シ又一方ニハ公債原簿ノ調製及ヒ記入公債證書ノ發行證書額面ノ記入ヲ爲

シ法令ニ依リテ募集ノ方法拂込ノ期限利子ノ歩合償還ノ方法等ヲ規定シ以テ
債權者ノ權利ノ確實ヲ保障スルニ至レリ

確定公債ハ大別シテ二種ト爲ス有期確定公債及ヒ無期確定公債是ナリ今此區
別ヲ述フルニ先テ先テ確定公債ノ過去將來ニ亘ル大體ノ趨勢ヲ一言スヘシ
紀元十八世紀ノ末葉ニ至ルマテ所謂確定公債ト稱セラルモノモ其實質ハ全
ク流動公債ト其趣ヲ一ニセリ即チ其償還期限短期ナリシノミナラス豫定ノ償
還期限滿了ノ有無ニ拘ラス債權者ハ自己ノ利害關係ヨリ臨時公債償還請求ノ
權利ヲ有シ又負債主タル政府モ財政上ノ便宜ニ從ヒ必スシモ豫期ノ年限內ニ
償還セサルコト少シト爲ナス此ノ如ク償還期限短期ニシテ其償却方法モ亦確
定セサルヲ以テ政府ノ財政調和劑タル公債ハ却テ政府財政整理ノ累ヲ爲スニ
至リタリ是レ政府ノ財政ノ緩急ニ拘ラス償還ノ義務急迫ナルヲ以テ公債額
増加ト共ニ却テ政府ノ負擔ヲ大トスルモノナレハナリ而シテ此弊害ハ消費公
債ノ多キ當時ニ於テ殊ニ甚シク政府ハ償還ノ時期方法等ヲ自ラ規定シ債權者
ノ容喙ヲ許ササルノ必要益大ナルヲ見ルニ至レリ彼ノ外國債ヲ以テ絕對ニ有

客ナルモノトシ之ヲ非難スル者多カリシハ當時ノ公債制度ニ於テ又故アリト謂フヘキナリ

消費公債トハ重ニ戰時事變ニ一時ニ消費セラレ之ニ應スヘキ有形的收入ノ存セサルモノニシテ他ノ收入ニ依リテ之カ償還ヲ計ルヘキモノナリ所謂國民ノ負擔ヲ増スコト大ナルモノニシテ非常公債ハ多ク此種ニ屬スルモノナリ

貯蓄公債トハ又事業公債或ハ間接抵當公債ト稱セラレ其公債ノ消費ニ伴ヒ直接ニ政府ノ收入ヲ増シ間接ニ人民ノ幸福ヲ増進スルモノナリ故ニ償却ノ方法期限等之ヲ豫定シ易キモノニシテ經濟上ノ平常公債ハ此種ニ屬スルモノナリ

固定公債ハ又借換公債ト曰ヒ財政整理ノ爲メ流動公債又ハ確定公債ヲ固定公債ニ變更シタルモノニシテ財政上ノ平常公債ハ此種ニ屬スルモノナリトス

第十九世紀ニ至リテ各國皆公債ヲ募集スルニ當リ先ツ債權者ノ容限ヲ禁ル債

還期限ヲ長クシ財政上ノ緩急ニ應シテ辨濟スルノ主義ヲ執リ彼ノ減價基金法ノ如キモ此段階ニ於ケル一ノ方便トシテ政府ノ信用扶持ノ爲メニ用ヒラレ記名ノ制ニ依リテ債權者ノ權利ヲ確保セラレタリ爾後信用經濟ノ發達ニ伴ヒ減價基金法ハ廢セラレ無記名ノ記名ニ代リ擔保又ハ花札附ノ制度ハ廢セラレ償還期限ハ漸次延長セラレ遂ニ償還期限ノ長短ハ又應募力ヲ左右スルノ力ナク所謂無期ノ公債ト云ヒ永久ノ公債ト稱セラレモノノ認メラルルニ至レリ

第二項 有期確定公債

第一目 割増公債

割増公債ハ必ズモ無期確定公債ニ適用スルコト克ハサルモノニ非スト雖モ通例有期確定公債殊ニ比較的短期ニシテ少額ナル公債ニ適用セラルルモノニシテ元金及ヒ利子ノ償還支拂ノ外籤札ヲ附シ其當選者ニ利拂ノ際別ニ金額ヲ付與スル公債ナリ其體様ニ至リテハ種別甚ダ多シト爲ス

割増公債ニ對スル消極論者ハ此ヲ三種ニ分ツコトヲ得道德上ヨリ觀察セル滑

極論者法律上ヨリ觀察セル消極論者及ヒ財政上ヨリ觀察セル消極論者はナリ
道德上ヨリ觀察セル消極論者は割増公債ハ勉強儉約才能ノ外人民ヲシテ富ヲ
得ルノ道アルコトヲ指示スルモノニシテ投機心ヲ誘導スルモノナリト云フニ
在リ彼ノ「フランク」氏カ勞力者ニ告ケシ語即チ「人アリ汝ニ勉強ト儉約ニ由
ラスシテ富ヲ得ルノ道アリト教示セム之ヲ以テ汝ニ毒ヲ與フルモノトセム」ト
言ヘルカ如キ又此精神ヲ表彰スルモノニシテ道德上復タ一點ノ非議ヲ容ルヘ
カラサルモノナリ

法律上ヨリ觀察セル消極論者は抽籤ニ依リテ射利ヲ爲サシムルハ文明國ノ法
文上明カニ禁スル所ナリ政府カ割増公債ヲ發行シ又ハ此カ發行ヲ許スハ自ラ
刑法ノ正文ニ悖反スルモノナリト云フニ在リ蓋シ富籤及ヒ之ニ類似セルモノ
ハ其掛金少ク富籤金ノ不均勻ナルニ從ヒ廣ク社會ニ流行セテ其大多數ハ落
選ノ爲メ自己ノ貯蓄ヲ消耗シテ恒心ヲ失ヒ投機ノ惡風上下ニ浸潤スルニ至ル
モノナリ「シザリ」氏ハ千八百七十年佛蘭西土院ニ於テ報告セザル一部ニモ
「富籤ハ第一多數ノ利益ヲ剝奪シ僥倖ニ由リ之ヲ少數ニ與フルモノナリ第二、籤

札發行者は其買入人トハ平等ノ地位ヲ占ムル能ハス其利益更得ルノ機會ハ發
行者ニ多ク籤札買入人ニ少シト云ヘリ蓋シ抽籤ニ依リテ射利セザルニ非ズ
千八百三十六年ノ佛蘭西法律第二條ニハ富籤ヲ以テ僥倖ヨリ出タル利益ヲ
與フル所ノ動産不動産若クハ商品ノ賣買及ヒ其他一般ニ僥倖ヲ以テ公衆ニ
利益ヲ得ヘキ望ヲ置カシムル所行ハ總テ之ヲ富籤ト認メ一切之ヲ禁止スト
アリ我國現行刑法第二六二條參照セザルニ非ズ蓋シ抽籤ハ富籤ノ一種ナリ
財政上ヨリ觀察セル消極論者は濫用ノ弊害大ニ覺テ且ツ此カ管理ニ困難ナリ
ト云フニ在リ蓋シ多少人民ノ僥倖心ヲ利用スルコトハ頗ル便利ニシテ所定ノ
需要額ヲ容易ニ收メ得ヘキニ由リ濫用ノ極所謂法文禁制ノ純然タル富籤ト同
一ノ現象ヲ呈スルニ至ルコトアリ彼ノ土耳其鐵道會社發行ノ籤札附社債ノ如
キ一口ノ常籤二十四萬圓ノ巨額ニ上リ又「バル」地方債ノ如キモ掛金僅
ニ八圓ニシテ無利子トシテ一方ニ當籤金ヲ不當ニ大ナラシメシカ如キ共ニ濫用
ノ極ニ失セルモノニシテ一方ニ國民ノ投機心ヲ挑發シ一方ハ不公平ナル
富ノ分配ニ由リ多數ノ失業者ヲ生セシムルメキナラス政府ハ信用ヲ失墜シ將

來財政ノ伸張力ヲ絕對ニ抑壓スルニ至ルモノナリ信用經濟ノ發達セル國民ハ割増制度ナルモノハ不信用ヲ自白セルモノトシ却テ募集ニ應ゼサルヲ例ト爲スニ至ルハ既ニ現時英國等ニ於テ見ル所ナリトスヤ
割増公債ノ管理上困難ナリト云フハ其取扱方法ノ錯雜ヲ極ムルノミナラス巨額ノ公債ハ五十年百年ヲ期シテ償還ヲ了ル能ハサルモノナルニ其間ニ便宜償換ヲ爲スヘキ好機ニ際遇スルモ之ニ應スルコト克ハサルノ不利アリ是レ當初ヨリ低利ヲ以テ募集シ利子ノ外ニ尙ホ割増金ヲ支拂フヨリ生スル當然ノ結果ニシテ巨額ノ公債ニ割増法ヲ採用スヘカラスト爲ス理由又茲ニ存ス
以上ハ割増公債ニ對スル消極論ノ大要ナリトス固ヨリ割増ノ性質タルヤ道德ノ原則ニ違背セル變則ノ手段ニシテ若シ其方法ニシテ宜キヲ得ザレバ其害毒ノ恐ルヘキ又一財政問題トシテ厭過スヘキモノニ非ス然レトモ其額巨大ニ失セス其方法ニシテ宜キヲ得ンニハ又絕對ニ非難スヘカラサルモノニシテ以テ間接ニ下級人民ノ勤儉貯蓄ヲ獎勵シ所謂道德上及ヒ法律上ノ非難ヲ事實ニ於テ之ヲ防遏ナシ得サルニハ非ス即チ此等ノ弊害ヲ避クヘキ重ナル方法ハ大凡

次ノ如シキハニ割増法ニ對シテ其ノ一割ハ當該家計公債ノ募集ヘテテハ大ニ

- 第一 割増附ノ公債證書ニ必ス全般ニ利子ヲ附スヘシ但シ一方ニ割増金額ヲ支フル範圍内ニ於テ成ルヘク通例ノ歩合ト差異ノ少キコトヲ要ス
第二 當該ノ數ハ成ルヘク多クシテ其一箇ノ當該額ノ巨額ナラサルコトヲ要シ一方ニハ割増金總額ハ其割増公債ノ利子ノ低下ナルニ由リ生スル利得額ヲ超過セサルコトヲ要ス
第三 元金ノ償還ハ必ス拂込高ヨリ下ルコトナキヲ要ス
第四 割増抽籤ノ度數ハ一年二回ヲ起ユルコトナキヲ要ス
第五 割増公債ノ總額ハ巨大ニ失セス且ツ其償還期限ハ長期ニ亙ラサルコトヲ要ス

之ヲ要スルニ割増公債ハ公債ノ常道ニ非スレテ一時臨機ノ一方便タリ英國ニ在リテハ今世紀ノ初期ヨリ全ク廢棄セラレ普國ニ在リテハ千八百五十五年以後復タ此公債ノ發行アレシヲ聞カス佛伊兩國ニ於テ猶ホ行ハルルモノノ如キモ各國ヲ通シテ漸次廢絶ニ趣クモノノ如ク我國ニテハ近時勸業銀行ニ割増附

社債ノ發行ヲ認メシ外復タ其例ヲ聞カス其方便ニシテ時ト處ニ依リ絕對ニ非
購スヘキモノニ非サルモ唯一時ノ手段トシテ最モ此カ方法ニ付キ慎重ノ措置
ヲ執ルヘキコト論ナキナリ

第二目 年金公債

年金公債トハ政府カ借入タル一定ノ金額ヲ償還スルニ際シ其債權者ニ利子ト
元金ヲ區別スルコトナク元利ヲ込メタル金高ヲ年賦ヲ以テ償還スル公債ナリ
年金公債ハ其元金ト利子ヲ區別セサル點ニ於テ他ノ公債ヨリ分ナテ之ヲ論述
スル者尠カラズ然レトモ元金ト利子ヲ區別スルノ有無ハ流動確定ノ二公債ノ
圖外ニ置クノ必要ナキヲ以テ予ハ此ニ確定公債中ノ有期公債ノ一部ニ編入シ
タリ定期年金ノ有期公債タルヘキハ固ヨリ異論ナキノミナラス終身年金ト雖
モ永久公債ニ比スレバ政府カ財政ノ緩急ニ從ヒテ元金ヲ償還スルコトヲ得永
久ニ償還ノ義務存在セサル點ニ於テ全ク其性質ヲ異ニシ唯其償還ノ最終期限
カ不確定ナルニ過キサルヲ以テ共ニ一種ノ定期定期公債ト視ルヘキモノナレ

ハナリ
年期國債ヲ分チテ終身年金及ヒ定期年金ト爲ス其定期ノ期間ヲ標準トシ終身年金ノト
年金年賦ノ方法ハ定期年金ノトキハ其定期ノ期間ヲ標準トシ故ニ今定期年金ノ約定期間
キハ死亡生殘表ニ據リテ一定ノ期間ヲ標準トス故ニ今定期年金ノ約定期間
ヲ十年又ハ終身年金ノ請求者五十歳ニシテ十年間生存スヘシト豫定セル場
合ハ債權者ハ其債權成立ノ年ヨリ次ノ比例ヲ以テ年賦額ヲ受取ルコトト爲
ルヘシ
第一年 元金ノ十分ノ一及ヒ元金總額ノ利子
第二年 元金ノ十分ノ一及ヒ元金ノ十分ノ九ノ利子
第三年 元金ノ十分ノ一及ヒ元金ノ十分ノ八ノ利子
(以下略之)
然レトモ此方法ハ政府ノ手數ヲ増スノミナラス債權者モ毎年額ノ差異アル
ハ好マサル所ナルヘキヲ以テ通例右表ノ年年遞減スル利子ノ總額ヲ元金ニ
加算シ此ヲ十分シテ毎年一定額ヲ支拂フヲ例ト爲セリ

甲 終身年金公債

終身年金公債ハ其債權者ノ終身間年年元利ヲ込メタル一定ノ年賦金ヲ支拂フ公債ニシテ其債權者ノ死亡カ豫定期限ヨリ先ツヤ否ヤニ由リテ損益ノ一定セサルモノナリ此公債ハ子孫ニ財産ヲ殘スコトヲ要セス年年一定ノ金額ヲ得テ餘命ヲ送ラントスル者等ニ便利ナル方法ニシテ殊ニトシチン法ニ至リテハ多少僥倖心ヲ利用シテ往時盛ニ行ハレタルモノナリトス然レトモ近時一般ニ政府及ヒ民間ニ貯金ノ機關設備セラレ殊ニ生命保險ノ制行ハルルニ及ヒ漸次其跡ヲ絶ツニ至リ近時終身年金ノ變形トモ視ルヘキ政府ノ生命保險法ニ由リ其殘影ヲ殘スニ過キス

英國ニ於テハ「ビツト」以前ニ盛ニ行ハレ殊ニウヰリヤム第三世ハ百磅ノ拂込ニ對シ拂込人又ハ其指名人ニ終身十四磅ヲ支拂フコトヲ約シテ百萬磅ノ公債ヲ起セシコトアリ
終身年金ノ複雜セル「トシチン」法ナルモノアリ此法ハ同年齡ノ人ヲ集メ之ヲシテ同一ノ年金ヲ有スル年金證書ヲ購買セシメ政府ハ常ニ年年一定ノ年金ヲ其

加入者ノ全滅スルマデ支拂フモノナリトス故ニ加入者ノ年ヲ逐フテ死亡シ其數ヲ減スルニ從ヒ其生殘者ノ受領スル分額漸増スルモノトス此方法ハ第十七世紀伊太利ノ銀行家「ローレン」トシチンノ意匠ニ保ルモノニシテ英佛各國ヲ通シテ盛ニ行ハレモモノナリ但シ此トシチン法ハ財政學上ノ價值ヨリモ死亡生殘表ノ根原トシテ人口統計ニ密接ナル關係ヲ有シ統計學上最も重要ナルモノトス

「トシチン」法ノ實例ヲ一此ニ列舉スルハ煩雜ニ堪ヘサルヲ以テ此ニ英佛二國ニ於ケル「トシチン」法ノ重ナル場合ヲ摘記スルニ止ムヘシ
佛蘭西ニテハ路易十四世ノ朝千六百八十九年及ヒ千六百九十六年ニ「トシチン」法ヲ行ヒシニ千七百二十六年ニハ唯一婦人ヲ殘スニ至レリ此婦人ハ九十六歲マデ生存シ上述第一及ヒ第二ノ「トシチン」ニ各百二十圓ヲ拂込メ一人ト爲リテヨリ二萬九千四百圓ノ年金ヲ受クルニ至リタリ

英國ニ於テ千六百九十二年千七百六十六年及ヒ千七百八十九年ノ三次ニ「トシチン」法ヲ行ヒタリ但シ死亡生殘ノ統計明カナラサルヨリ成效セス却テ愛

聞ニ於テ千七百七十三年同七十五年及同七十八年ノ三次ニ行ヘルトシテ
シ法其效ヲ奏シタリ
乙 定期年金公債 政府カ其債權者ニ所定ノ期間年元利ヲ込メタル一定ノ年
賦金ヲ支拂フ公債ニシテ英國ニ於テ最モ盛ニ行ハレシモノニシテ其最長期間
ハ九十九年ナリキ蓋シ定期年金公債ノ利子ハ通常公債ノ利子ヨリ多キヲ例ト
爲シ又其期間ノ長短ニ依リテ相異ナリ是レ本項緒論ノ際叙述セルカ如ク年年
等一ノ額ヲ支拂フヨリ生スル當然ノ結果ナリトス
定期年金ハ其債權者ノ生死ヲ問ハサルモノナルヲ以テ一方ニハ此カ自由ノ賣
買授與ヲ許スヲ例ト爲シ若干年間其資金ニ對シテ定期ニ最大ノ收入ヲ得ルニ
便利ナル方法ナリトス殊ニ學生ノ如キ若干年後成業ヲ期シ得ヘキ者カ其期
間内ノ放銀ノ手段トシテ最モ其效果多キモノトス又政府ニ於テモ他ノ公債ノ
如ク一時ニ巨額ノ元金支拂ヲ爲スノ要ナク年年元金ノ一部ヲ支拂ヒ不知ノ間
ニ之ヲ償還シ盡スノ利アリ英國ニ在リテハ此定期年金ノ制ヲ單獨ニ用ヒス低

利ノ永久公債ノ債權者ニ對シ其低利ノ補償手段トシ用ヒラレシコト多シ
千七百年ニ英國ノ永久公債ノ利子ハ僅ニ二百六十圓ナリシモ年金終身年金
ヲ包含ス支拂高ハ一千二百餘萬圓ニ上リ千七百十一年ニハ猶ホ六百七十八
萬餘圓ノ利子ニ對シ九百十二萬餘圓ノ年金ヲ支拂ヒタリ千八百六十九年ニ
ハ永久公債ノ利子ハ二億二千八百餘萬圓ニ上リ年金支拂額ハ四千餘萬圓ニ
上リ其比率ハ遙ニ下リシモ其絕對額ハ又巨額ニ上レルモノト謂フヘキナリ
佛蘭西ニ於ケル年金ハ英國ノ年金ト異ナリテ政府カ國立銀行鐵道會社其他地
方團體ニ支拂フヘキ年金即チ予カ第四節第二款中契約公債ノ下ニ於テ精給金
トシテ舉ゲシモノノ外向ホ有期定期支拂ノ公債大藏省證券ヲ含ムヲ包含セリ
隨テ全ク此ニ之ヲ詳述セルノ要ナキモノニシテ千八百七十六年ニハ其年金支
拂豫算高ハ六千八百八十萬圓千八百八十一年ニハ一億四千三百餘萬圓ナリシト
云フ
上述スル所ニ據リ終身及ヒ定期年金公債ノ概念ヲ通叙シタリ而シテ此年金公
債ハ固ヨリ其體様ノ輕重ニ依リ一様ニ論斷スヘカラスト雖モ債權者ニ於テ便

利ナル方便ナリトス然レトモ財政上概シテ弊害多キモノトシ現時年金制度ハ漸次其跡ヲ收ムルニ至レリ是レ一方ニハ生命保險又ハ貯金ノ方便完備スルカ爲メ其必要ノ度ヲ減セシノミナラス一方ニハ其體様如何ニ依リ民間ノ資本ヲ吸收スルノ害アルト共ニ長期ノ年金公債ハ通常公債ノ如ク時ノ便宜ニ依リ之ヲ借換又ハ償還ヲ完了スルコト克ハス必ス元金ノ一部及ヒ利子ヲ定期ニ支拂フノ要アレハナリハ其間ニ於テハ唯郵便貯金年金ノ制ノ如ク少額ニ限之ヲ要スルニ年金ノ制度ハ今日ニ於テハ唯郵便貯金年金ノ制ノ如ク少額ニ限リ一種ノ行政上ノ公債トシテ認ムルハ猶ホ可ナリト爲スモ政府カ財政上巨額ノ收入ヲ得シカ爲メ不利益ナル條件ヲ以テ募集シ財政ノ緩急ニ應スルコト能ハス定期ニ定額ノ元利支拂ヲ爲スハ財政上執ラサル所ニシテ十七世紀十八世紀ニ通シテ盛ニ行ハレシモ畢竟政府カ國內ニ存スル債務ニ對シテ利子ヲ支拂フモ人民ハ決シテ損害ヲ被ラスト斷定セル誤見ニ基クモノニ外ナラス隨テ近時社會政策主義ノ發達ハ年金制度ハ又國民ノ多數ヲシテ國民ノ一部ニ支配ヲ爲ナシムル所以ヲ闡明シ社會政策上即チ富ノ所得分配上ヨリ觀察セテ等シク

其無益有害ナルコト一般ニ證明セラルルニ至レリ

第十七世紀第十八世紀ニ際シテハ一般ニ公債ヲ以テ其金額ニ比例シテ社會ノ富ヲ増殖スルモノナリトシ公債ヲ以テ絕對ニ利益アルモノトセリ其利害得失ノ如何ハ又茲ニ辯明スルノ要ナキヲ以テ茲ニハ此等論者ノ重ナル所説ヲ列舉スヘシ

「ワボルター」氏曰ク若シ政府カ内國人ニノミ公債ヲ募ルトキハ該國ハ決シテ衰頹スルコトナク却テ各種ノ事業ヲ獎勵スルモノナリト

「ムロン」氏曰ク政府ハ其公債ニ因リテ衰頹ヲ來スコトナシ如何トナレハ其利子ハ右手ヲ以テ之ヲ收入シ左手ヲ以テ之ヲ支給スルモノナレハナリト

「バルクリー」僧正曰ク公債ハ一種ノ金坑ナリトモ

「ピントウ」氏曰ク公債ナルモノハ其額面ノ金高ニ等シキ資本ヲ以テ國家ノ富ヲ増加スルモノナリト

「ジフレース」セイン、レラン氏曰ク政府ハ公債ヲ募リ以テ一時世間ニ流通スル資本ヲ奪フト雖モ常ニ直チニ之ヲ返還シテ復タ之ヲ融通セシムルモノナリ

如何トナレハ政府ノ公債ヲ募集スルハ之ヲ支出セシカ爲メナレハナリト
「カニール」氏曰ク英國ノ繁榮ハ一ニ公債ニ存スルモノナリト
或學者曰ク公債ハ大砲ノ如シ若シ彼國民之ヲ用フルトキハ此國民モ亦之ヲ
用ヒスシハ危難ヲ避クルコト能ハサルモノナリト
以上列舉スルカ如キ思想ノ行ハレシ際ニ在リテハ年金ヲ他ノ公債ヨリ尊重
セルハ又怪ムニ足ラサルナリ

第三目 定期確定公債

甲 定期一時支拂公債

定期一時支拂公債トハ一定ノ期限ニ於テ一時ニ全額ノ支拂ヲ約スル公債ニシ
テ其期限内ニ於テハ財政甚タ緩裕ニシテ償還ヲ爲スラ便ト爲スモ此カ償還ヲ
遂行スルコトヲ得ヌ又利子ノ歩合ノ變動ニ因リ公債ノ借換ヲ爲スラ便ト爲ス
モ此カ借換ヲ遂行スルコトヲ得ヌ而シテ一方ニハ其期限ニ際シテハ財政ノ緩
急ニ拘ラス一時ニ其全額ノ償還ヲ期セスシハ非ス隨テ此種ノ公債ハ其額巨額

ニ上ルトキハ絕對ニ採用スヘカラサルモノニシテ若シ財政上ノ方面ヨリ觀テ
幸ニ容易ニ之カ償還ヲ爲スコトヲ得ヘキモ一時ニ巨額ノ流動資本ヲ投下スル
モノナルヲ以テ物價ノ暴騰ヲ來シ輸入超過ト爲リ貨幣ノ購買力ノ減少ハ事業
ノ濫興ト爲リ投機心ヲ挑發シ經濟上ノ害毒ヲ流スニ至ルコト又尠シト爲サザ
ルナリ故ニ此種ノ公債ハ便宜少額ノ募集ニ際シ稀ニ用フヘキ手段ニシテ一般
ニ此方法ヲ執ラサルヲ原則ト爲スモノナリ

乙 定期定期支拂國債

定期定期支拂公債トハ一定ノ期間内ニ償還年限及ヒ一定ノ一部償還額ヲ定メ
テ支拂フ公債ニシテ一時ニ全額ヲ支拂フノ危險及ヒ不利ヲ年限ノ分配ニ依リ
テ避クルノ法ナリ故ニ通常其全額ノ一部ヲ豫算ニ組入ルコトヲ得ヘク國庫ハ
一定ノ公債元利支拂資金ヲ支出シテ漸次濟崩ノ法ニ依リテ此カ完済ヲ期スル
モノナリ故ニ其償還年度ヲ經ル毎ニ其前同ニ償還セシ元金ニ對スル利子ハ之
ヲ元金ノ償還高ニ加算スルヲ以テ政府ハ同額ノ支出ニ由リ漸次償却高ヲ増加
スルコトヲ得ルモノナリ

此公債ノ利益ハ收入金ノ使用法ヲ明カニシテ一ノ特別會計ヲ設クルニ在リ即チ濟貼法ニ依リ精確ナル豫算ヲ設クルコトヲ得ルニ在リ隨テ國家カ平和無事ニシテ毎年巨額ノ歲入剩餘ヲ有シ償還ヲ豫期シ得ヘキトキハ其弊害ヲ見ルコト尠シト雖モ此ノ如キハ稀有ノ例ニ屬スルモノニシテ僅ニ一千八百三年十一月三日ルイジニヤ州買上ノ爲メ四箇年ノ年賦償還ヲ以テ起債セル北米合衆國ノ例ヲ見ルニ過キス蓋シ此場合ニハ募集額ハ其國ノ財政上少額ニ止マリ隨テ此カ支拂期限モ短期ヲ以テ足レリト爲セシモ一般ニ四五十年ヲ以テ償還期間ト爲スヲ以テ其間政府カ終始無事平穩ニシテ財政ノ餘裕ヲ期センコトハ不能ニ屬スヘキノミナラス所謂政府カ財政ノ緩急ニ應シテ之カ償却又ハ借換ヲ爲スノ便ヲ缺キ獨逸各州ニハ猶ホ此種ノ公債ノ爲メ市場ノ金利歩合三分四分ノ間ヲ昇降スルニ拘ラス五分利附ノ文拂ヲ繼續セルモノアリ又ハ期限ノ到來ニ因リテ定額支拂ノ義務ヲ負ヒ爲メニ額ニ高利ノ公債ヲ起スカ如キ弊害少シト爲ナス殊ニ土耳其埃及等ノ如キ財政ノ信用薄弱ナル國ニ在リテハ債權者ハ自己ノ債權ヲ確保スルカ爲メ公債ヲ發行スルニ當リ其契約中毎年利子ノ外更ニ

若干ノ金額ヲ支出シ之ヲ以テ償還基金ヲ積立ラヘシト定ムルコトアリ故ニ此種ノ公債ニシテ商法ニ於テ所謂建築利子ヲ認ムルカ如キ事業即チ其收益ノ期限ニ達スルニ數年ヲ要スヘキ事業ニ投シ又ハ消費公債ニ屬スヘキモノニ在リテハ國庫カ尙ホ資本借入必要ヲ感スルニ際シ負債ノ償還ヲ期スヘキモノニシテ公債ノ發行ト公債ノ償還ヲ同時ニ混合セル變體ト謂フヘクアダム氏ノ如キハ評シテ一種ノ贅澤ナル遊戲ナリト爲セリ

之ヲ要スルニ此種ノ公債ハ一方ニハ國家平和無事ニシテ財政ノ餘裕アルニ際シ少額ニ限リ短期ニ償還ヲ期スヘキトキハ強テ之ヲ非難スヘカラサルモ此等ノ場合ニハ他ニ救済ノ方法尠カラサルヲ以テ定期一時支拂公債ニ比スレハ尙ホ一段ノ進歩ヲ見ルモ財政上政府ノ信用ノ薄弱ナルコトヲ證スル不利ノ公債ト認メスルハ非サルナリ

丙 定期隨時支拂公債

定期隨時支拂公債トハ一定ノ償還期限ヲ定メ其期限内ニ於テ政府カ隨時ニ支拂フ公債ニシテ定期定額支拂法ニ比シテ又一段ノ進歩ヲ爲セシモノナリ即チ

定期一時支拂法ニシテ其期限到達前償還借換ノ自由ヲ有スルモノト見ルコトヲ得ヘシ此公債ハ北米合衆國ニ於テ大藏長官チエース氏ノ始メテ用ヒモノニ係リ合衆國ニ於テ盛ニ行ハルニ由リ又之ヲ米國法ト稱ス我邦ニ於ケル公債モ亦此制ヲ取ルモノニシテ共ニ公債ノ發行ニ際シ一定ノ據置期限ヲ定メ五十年ヲ以テ通例ノ償還期限ト爲セリ

此公債ノ利害ハ一ニ當局財政家カ其期限内ニ於ケル措置ノ如何ニ存スルモノニシテ若シ立法部行政部共ニ唯其年ノ經費ノ減少ヲ目的トシ隨時ノ支拂タルニ安ンシテ平素之カ償還ニ勉メサルトキハ滿期ノ際ニ受クヘキ弊害ハ正ニ定期一時支拂公債ト全ク其轍ヲ同シクスヘキモノナリ故ニ政府此カ滿期ニ際シ平素之カ償還ヲ怠リ殊ニ戰事其他ノ事變起ルトキハ臨時費支給爲メ公債募集ノ必要アル外更ニ舊公債ノ借換又ハ償還ノ爲メ又此カ新公債募集ノ窮況ニ陷ルコトナシトセスアダム氏ノ如キハ此點ヨリ永遠公債ノ利ヲ主張シテ又別ニ此公債制度ニ有害無益ニシテ臣民ニ又寸毫ノ保障ヲ與フルモノニ非サルコトヲ論セリ固ヨリ唯リ定期臨時支拂公債ニ限ラルヘキモノニ非サルノミナラ

ス全然同意ヲ表シ難キ點アルモ參照ノ爲メ其大要ヲ掲載スヘシ

定期臨時支拂ノ公債ハ果シテ如何ナル特別ノ利益ヲ有スルカ公債ノ所有者ヲシテ之カ償還請求ノ期限ヲ定ムルモ又以テ永久ニ公債ヲ存續セシメサルコトヲ保證スルニ足ラス如何トナレハ一ノ内閣ハ公債償還ノ主義ヲ實行スルモ將來ノ内閣ヲシテ此方針ヲ遂行セシメ能ハサルノミナラス將來ノ内閣ハ隨時法律ヲ以テ此カ償還期限ノ變更ヲ爲スニ容易ナルヘシ殊ニ一ノ公債ヲ償還スル爲メ更ニ新公債ヲ發行スルコトヲ得レハ公債其モノノ消滅ニ對シテハ何等ノ效果ヲ生スルナク寧ロ當初ヨリ永遠ノ公債ト爲スノ勝レルニ如カサルナリ人或ハ此種ノ法律ノ存在ハ少クトモ公債ノ永續ヲ總義上豫防スルノ效果アルヘシト論スル者アラン然レトモ普通ノ商業ニ於テ長期ノ契約ヲ爲シ又ハ新負擔ヲ起シテ舊負擔ヲ償却スルコトカ廣ク行ハルハ慣例タルコトヲ知ラハ以上ノ立論モ亦一片ノ空想タルコトヲ免レサルヘシ

然レトモ此法ハ據置期限經過ノ後ハ財政ノ緩急ニ應シ隨時之カ償還又ハ借換ヲ行ヒ又財政ノ窮況ニ際會スレハ強テ之ヲ償還スルノ要ナク一方ニハ永遠公

債ノ場合ノ如ク償還ヲ永遠ニ期スルモノニ非サルヲ以テ自然此カ償還ニ勉メ累テ後世ニ貽スノ弊害ヲ輕減スルノ利アリ故ニ財政上ノ措置宜キヲ得ハ有益無害ノ制度ニシテ殊ニ北米合衆國又ハ我邦ノ如キ新開ノ國ニシテ沿革上未ダ永遠公債ノ發達セサル所ニ於テハ最モ適當ナル公債ト謂フヘキナリ

第三項 無期確定公債

無期確定公債又ハ永遠公債トハ利子ノ支拂ノミヲ約シ元金ノ償還ニ付テハ期限ヲ定ムルコトナク政府ハ隨時ニ之カ償還ヲ爲シ得ル公債ニシテ現時英佛伊獨等歐洲各國ノ公債ノ大部分ヲ占ムルモノナリ
無期公債ハ債權者ヨリ元金償還ノ請求ヲ受クルコトナク唯之カ利子ヲ支拂フノ責ニ任スルニ過キス即チ臨時費ハ許多ノ小支拂金ニ分割セラレ經常費トシテ認ムルモ敢テ差支ナキニ至ルヲ以テ其負擔ハ勢ヒ緩和ニシテ一方ニハ財政上ノ緩急ニ應ジ臨時市場ノ買上又ハ元金ノ支拂ニ由リ便宜所要ノ額ヲ償還スルコトヲ得ルモノトス

學者或ハ無期ノ確定公債ハ唯市場ノ買上ノミニ依リテ之ヲ償還シ得ヘキモノナリト論スル者アレトモ探ルニ足ラス
蓋シ文化ノ進運ハ益々貨幣ノ供給信用ノ發達ヲ増加シ金利ハ漸次低下スルヲ原則ト爲スヲ以テ今世ノ公債ハ後世ニ於テ高利ノモノト爲リ低利ヲ以テ之ヲ借換ヘ奉テ國家ノ經費ヲ節減スルコトヲ得ヘク國家信用ノ遞増スルニ從ヒ當事者雙方ニ於テ利便ヲ享有スルコト鮮ナラストス
無期ノ確定公債ハ元金償還ノ請求權ヲ認メサルニ拘ラス人民ノ以テ不便ト爲ナサル理由ハ一ニ其公債證書ノ賣買授與自由ナルニ存ス故ニ一方ニハ一定ノ資金ヲ放銀シテ永久ニ確實ナル一定ノ利子ヲ所得セントスルモノニ對スル好箇ノ方法タルノミナラス一方ニハ利子ノ支拂金利ノ高低政府ノ信用其他各種ノ原由ヨリ其公債ノ取引價格ノ變動ニ因リ株式市場ニ利益ヲ得ントスル者ニ對シテ又一般ニ歡迎サルヲ常ナリトシ元金ノ收得ヲ要スルトキハ隨時之カ賣買ニ因リテ毫モ不便ヲ受クルコトナキヲ以テ各國ノ文化ノ發達ニ伴ヒ永久公債ハ漸次遞増ノ趨勢ヲ示スニ至レリ

株式取引所ニ於ケル公債ノ取引高ハ近時遞増シ倫敦取引所ノ如キ取引ノ目的物タル三千八百餘種ノ證券中三百五十種以上ハ公債證券ニ屬セリ殊ニ永遠公債ハ無記名トシ動産ト同一視セラレバ以テ株式取引所ニ於テ取引サルコト大ナルノミナラス殆ト金融界ニ於テ紙幣ト同一ノ效果ヲ生スルモノナリトス

之ヲ要スルニ無期ノ確定公債ハ全然國家ノ信用ヲ基礎ト爲スモノニシテ無期公債ノ起債ノ成立セラルル所以ハ適以テ其公債カ市場ニ於テ好價格ヲ保持スルコトヲ表彰スルモノニ外ナラス故ニ若シ其償還期限ノ定ナキニ安ンシテ等閑ニ付セ一公債償還セラレサルニ一公債ヲ起シ漸次累積シテ後世ノ負擔ヲ遞増スルニ至レハ實ニ財政ノ發達整理ヲ阻碍スルノミナラス率テ無期公債成立ノ基礎タル國家ノ信用ヲ減殺スルコトナキヲ保セス故ニ永遠公債ハ猶ホ租稅制度ニ於ケル地租又ハ所得稅ノ如ク全ク單獨ニ此ノミニ依頼スヘキモノニ非スシテ他ノ諸制度ト相待チテ以テ收支ノ適合ヲ計ルヘキモノナルト共ニ經濟財政ノ發達セル國ニ在リテハ公債ノ最重要ニシテ且ツ發達セルモノタルコ

トヲ認メスハ非サルナリ

第四章 公債ノ募集

第一節 緒論

公債募集ノ方法ハ之ヲ各種ノ標準ヨリ分類スルコトヲ得ヘシ而シテ之ヲ大別スレハ此カ募集ノ手續ヲ標準ト爲スモノト此カ公債ノ體様ヲ標準ト爲スモノト二者ト爲スコトヲ得ヘシ今此カ分類ヲ示セハ次ノ如シ

第一 募集ノ手續ヲ標準ト爲ス公債募集ノ方法

甲 直接發行法

乙 代理發行法

丙 請負發行法

第二 公債ノ條件ヲ標準ト爲ス公債募集ノ方法

甲 發行價額ヲ標準ト爲ス法

乙 割増發行法

財政學 財政通論 公債ノ募集 緒論

ろ 平價發行法

は 割引發行法

乙 籤札ノ有無ヲ標準ト爲ス法

丙 償還基金又ハ抵當物ノ有無ヲ標準ト爲ス法

丁 記名ノ有無ヲ標準ト爲ス法

戊 募集ノ同數及ヒ拂込高ノ多寡ヲ標準ト爲ス法

い 一時發行法又ハ高額拂込發行法

ろ 漸次發行法又ハ低額拂込發行法

第一及ヒ第二ノ標準ノ區別ハ主トシテ前者ハ公債ノ募集ヲ主觀的ニ觀察セルモノニシテ政府カ直接募集間接募集孰レノ方法ニ依ルヘキヤヲ主トシ公債其モノノ體様條件ニ就テ論究スルモノニ非ス所謂公債證書發行法ト稱セラルモノ是ナリ後者ハ公債ノ募集ヲ客觀的ニ觀察セルモノニシテ公債ノ體様條件ヲ主トシ其如何ナル方法ニ依リ發行セラルルカハ問フ所ニ非ナルナリ然レトモ此二者ハ常ニ相關聯セテ第二ノ種別ニ屬スヘキ募集條件カ單獨又ハ二箇以

上合同シテ必ス第一ノ種別ノ孰レカニ依リテ發行セラルモノニシテ互ニ密接ナル利害關係ヲ有スルモノナリ

上述二種ノ募集方法ニ通シテ別ニ限地發行法限人發行法ト稱セラルモノアリ

限地發行法及ヒ限人發行法トハ通常特別募集ト稱セラルモノニシテ政府カ或事業公債ヲ起スニ際シ其事業ニ付キ特別ノ利害關係ヲ有スル土地又ハ人民ニ對シテ募集スルモノナリ此方法ハ公債ノ體様募集ノ手續ヲ標準ト爲スニ非スシテ應募者ノ主體又ハ地域ヲ標準ト爲スモノナルヲ以テ便宜ノ爲メ此ニ述フルコトト爲セリ

此方法ノ利益ハ爲メニ利率發行價格等ニ於テ一般ノ募集ヨリ政府ニ於テ多少ノ利益ヲ得ルニ在リ佛蘭西ニ於テハ各都市ノ公共事業ニ於テ此例ニ依リシモノ多ク其募集ノ方法モ一般ニ其所在ノ人民ヨリ募集スルヨリモ其所在ノ地方團體商業會議所等カ請負發行法ヲ爲スヲ例ト爲セリ今世紀ノ下半期ニ於ケルハーヴル、マルセイユ、ボルドー、ドンケルク、ローアン、ガレイ其他六港ノ築港事

業ノ如キ多ク此例ニ從ヘリ千八百七十年佛蘭西兵制改革ノ結果トシテ諸方ニ銀臺ヲ設置スルノ要ヲ見ルヤ又特別募集ニ依リ三千二百餘萬圓ノ借入ヲ爲シ其貸付ケシ都市ノ數凡ソ八十五ノ多キニ上レリ或特定ノ土地又ハ人民ニ利害關係大ナルモノハ多クハ地方債ニ現ハレ又公債ニ於テモ之ヲ一般募集ト爲ストモ多少其地方ニ於ケル應募力ヲ大ナラシムルモノアルヘキハ當然ノ結果ニシテ唯其特效ヲ奏スヘキハ其地方ノ人民カ經費成效等ノ困難危慮ニ由リ此カ經營ニ躊躇スルニ當リ政府カ契約上此カ起業ヲ爲ス場合ニ在リ即チ所在ノ人民ハ斯業ノ成效ニ因リテ巨大ノ利益ヲ得ヘク若シ失敗ニ了ルモ其投下ノ資本ハ之ヲ還盡スルノ慮ナク政府ヨリ之カ償還ヲ受クヘキニ由リ普通ノ條件ヨリ利子ノ歩合發行ノ價格等ニ於テ多少ノ不利アルモ進ミテ之カ募集ニ應スルヲ常ト爲スモノナレハナリ

第二節 直接發行法及間接發行法

直接發行法トハ政府自ラ發行ノ局ニ當リ募集ノ危險手數等一切ノ責ヲ負フモ

ノナリ代理發行法トハ政府カ發行價格利息歩合等總テノ條件ヲ規定シ其執行手續ヲ銀行等ニ代理セシムルモノニシテ銀行ハ唯一定ノ手数料ヲ得テ募集ノ媒介ヲ爲スニ止ムルモノナリ諸負發行法トハ銀行又ハ一私人ト特約シテ公債募集總額ノ引受ヲ爲サシメ銀行ヲシテ一切ノ責ヲ負ハシムルモノニシテ銀行ハ漸次自己カ引受ケシ公債ヲ公衆ニ再賣スルヲ例トス直接發行法ノ不利ト爲ス點ハ要スルニ證書ノ價格ヲ廉ニシ利子ノ歩合ヲ高クスルノ二點アリ蓋シ銀行家ハ金融市場ノ實況ニ明カナルヲ以テ政府カ直接ニ發行スル場合ヨリ多少高キ割合ニテ引受クルコトアルヘク若シ政府直接ニ發行スルトキニハ銀行家ハ又應募者トシテ其間ニ同盟シテ非常ニ其價格ヲ下スコトアリ又直接發行法ハ諸負發行法ノ如ク所定ノ總額ヲ得ルコトヲ確保スルコト克ハサルヲ以テ勢ヒ此カ募集ノ失敗ニ了ラザランカ爲メ利子歩合ヲ高クスル等其公債ノ體様ニ於テ不利ナル條件ヲ以テスルヲ例ト爲スヲ以テ徒ニ巨額ノ失費ヲ見ルコト多シト爲スモノナリ公債募集ノ成效ノ有無ハ應募額ト募集額ト相一致スルニ存シ應募額ノ募集額

ニ下ルコト大ナル場合ハ固ヨリ全然失敗ニ了リシモノナルト同時ニ應募額ノ募集額ニ上ルコト大ナル場合モ亦等シク失敗ニ了リシモノト謂ハスハ非ス如何トナレハ應募額ノ募集額ニ上ルコト大ナリトハ所要ノ募集額ヲ得ルニ足ルヘキ條件ヨリ猶ホ不利ナル體様ヲ以テセルコトヲ示スモノナリ所要ノ貸財ヲ購買シ得サル場合ハ所要ノ貸財ヲ非常ナル高價ニテ購買セタルト共ニ失敗ニ於テハ一ナレハナリ而シテ直接發行法ニテハ需要額ヲ得ルノ難キヲ過慮スルカ爲メ募集額ヲ低下スルノ弊多キヲ以テ投機ヲ目的トスル申込ヲ統發シ應募額大ニ募集額ニ超過シテ投機ノ獎勵ヲ爲スコト多ク政府ハ一方ニ募集取扱割戻等ノ手數ヲ要スルノミナラス一方ニ民間ノ有力者資力ヲ盡シテ募集ニ應ジ爾後必要ノ結果トシテ仲フヘキ公債市價ノ騰貴ニ由リ之カ再買ヲ試ミ徒ニ此等少數者ニ壟斷セラルル不當ノ利益ハ遂ニ諸負發行法ノ場合ニ銀行ニ與フル諸負手數料ヲ超過スルコト數百倍ニ上ルノミナラス却テ投機獎勵ノ害毒ヲ流スコトナキヲ保セサルナリ

應募額カ大ニ募集額ニ超過スルコトハ各國其例ニ乏シト爲サス千八百六十

八年ノ佛國公債ハ應募額募集額ノ三十倍ニ達シ三十億法公債募集ノ時ハ十
三倍ニ上リ露西亞ニテ「フアストウオ」フレンボルグ間ノ四百萬圓ノ鐵道社
債ハ四十倍ニ達シ千八百七十四年「ライスチール」ワラゲ間ノ五百三十三萬
圓ノ鐵道社債同年葡萄牙政府ノ鐵道公債ノ如キ共ニ百倍ニ上レリ此等ノ現
象ハ明カニ應募額ノ募集額ニ下ルコトヲ悞ルルノ餘不當ニ公債ノ條件ヲ低
下セルカ爲メ投機者流ノ應募ヲ盛ニシタルコトヲ示スモノニシテ彼ノ佛國
西巴里府ニ於テ千八百七十六年ニ應募セシ公債ノ如キ當時ノ佛蘭西經濟雜
誌ニ於テ「ボリユー」氏ノ如キ九十六ニテ發行スヘキコトヲ論述セルニ拘ラス
九十三ノ割引ニテ發行セラレタルカ爲メ未タ十日ヲ經サルニ該證書ハ九十
七乃至九十八ニテ賣却セラレ政府ハ徒ニ三分餘ヲ失ヒタリ

此ノ如ク直接發行法ハ價格ヲ低下シ利子ヲ高ムルノ不利多シテ結局實質上
ノ諸負發行法ト爲リ其弊害渺シト爲サス寧ロ公然諸負法ニ依リテ資本家中諸
負ニ對スル競争ヲ利用シテ市場相當ノ價格ヲ以テ發行シ而モ安全ニ所要ノ額
ヲ收得スルノ便ナルニ如カス況ヤ公衆ハ又政府ノ募集ニ應スルノ不便ヲ避ケ

銀行ニ依ルヲ便ト爲スニ於テ、
千八百七十五年及千八百七十六年巴里府ノ公債募集ノトキハ公衆ハ當初
募集ニ應セス其後八分若クハ一割丈ク平價以上ニテ證書ヲ銀行ヨリ買入レ
シ者尠カラス蓋シ直接發行法ニ在リテ苟モ事實應募額カ募集額ニ超過スル
カ如キ應募者ニ利益アル場合ナランニハ低價遞減法又ハ高價遞減法等何レ
ノ方法ヲ執ルモ結局其大部分ハ常ニ銀行家ノ手ニ墜ツヘキコト明カナリ
トス

代理發行法ハ單ニ直接發行法ノ事務取扱ニ付キ銀行カ代理スルニ止マルヲ事
ロ一種ノ直接發行法ト看ルヲ便宜ト爲スノミナラス其利害關係ニ於テ二者頗
ル相類似セル所アリ而テ此等方法ノ利害問題ニ付テハ既ニ上述スル所ニ據
リ請負發行法ヲ以テ利便ナリトスルハ各國ノ實例ニ徴スルモ亦殆ト言テ埃タ
ナル所ナリトス而シテ現時資本ノ増殖年ヲ逐フテ大ニ加ハリ銀行ノ數遞増シテ
國際間ヲ通シ金融ノ利便アルニ至リテハ特ニ一定ノ銀行又ハ資本家ノ組合ト
約ヲ定メテ請負ハシムルノ要ナク此カ請負ヲ一般ノ競爭ニ付シ其銀行又ハ資

本家ノ組合中最モ高價ニテ買入ルヘキ者ニ之ヲ請負ハシムルノ法ヲ執ルニ至
リシヲ以テ銀行等ヲシテ巨利ヲ壟斷セシムルノ非難ヲ除去スルコトヲ得ヘキ
ノミナラス所定ノ募集額ヲ確實ニ收得スルノ利アルヲ以テ金融市場ノ狀況ニ
暗キ政府カ進ミテ直接發行ノ術ニ當ルハ殆ト近時各國ノ執ラサル所ニ付テ唯
代理發行法ニ於テ多少ノ例ヲ見ルアルノミ
英國ニ在リテハ第十七世紀ヨリ第十八世紀ノ初期ニ至ルノ間ハ重ニ代理發
行法ヲ用ヒ英國銀行ヲシテ代理ノ術ニ當ラセメタリ其後「リヤムビット」
ノ時ニ至リ競爭請負發行法ヲ行ヒ爾後一二ノ例外ヲ除クノ外ハ總テ競爭請
負發行法ヲ執レリ又佛國ニ在リテハ今世紀ニ於テハ中頃那破翁三世カ直接
發行法ヲ執リシ外ハ概シテ競爭請負發行法ヲ執リ近時歐米各國ハ皆競爭請
負發行法ヲ執ルヲ原則ト爲セリ我邦ニ在リテハ專ラ日本銀行ニ由リ代理發
行法ヲ執ルモ其募集費ハ外國ノ場合ニ比シテ僅少ナルカ故ニ代理發行法ト
シテハ比較的良好ナルモノニ屬セリ殊ニ我邦ノ經濟界ハ未タ競爭請負發行
法ニ依ルコト能ハサルハ言テ埃タサル所ナリトス

直接發行法ノ不利ナルコトハ既ニ上述スル所ノ如シ然レトモ此方法ニ附帶シテ低價遞減法及ヒ高額遞減法ヲ行フトキハ又多少ノ利益ナシト爲サス此等ノ遞減法ハ請負發行法ニ於テハ之ヲ望ムコト難キヲ以テ代理發行法等ニ此等ノ遞減法ヲ用フルトキハ又特種ノ效果ヲ有スヘキモノナリトス

低價遞減法トハ應募高募集高ニ超過スルトキハ應募價格ノ高キ者ヨリ漸次ニ證書ヲ交付シ政府ノ募集高ニ滿ツルヲ以テ之ヲ止メ其同價ノモノニ對シテハ應募額ニ比例シテ之ヲ削減スルモノニシテ又高價發行法高價無減法ト曰フ蓋シ直接發行法及ヒ代理發行法ニ在リテハ政府之カ募集ノ衝ニ當ルモノナルヲ以テ政府ノ信用ヲ維持シ公債募集ノ成效ヲ熱望スルノ餘低價高利ノ弊ニ陷リ易ク其極應募高募集高ニ數十倍スルカ如キ失態ヲ見ルコト多キハ既ニ上述スル所ナリ隨テ此等ノ場合ニ於テ政府カ低價遞減法ヲ行フ旨ヲ明カニセハ應募者ハ其申込ノ全額ヲ受取ルコト能ハサルコトヲ虞レテ發行價格以上ノ申込ヲ爲シ需要供給ノ原則上自然ニ價格ノ昂騰ヲ來シテ市場相當ノ價格ニ至ルヲ例ト爲シ或ル程度マテハ低價高利ニ因ル弊害ヲ減殺スルコトヲ得ヘキモノナリ

低價遞減法ノ實例ハ各國其例ニ乏シカラス今我邦ニ於ケル實例ノ重ナルモノヲ舉レハ次ノ如シ

明治十七年ヨリ十八年マテ三回ニ發行セル中仙道鐵道公債ハ我邦ニ於テ低價遞減法ヲ以テ募集セシ嚆矢ニシテ第一回ノ發行額面高ハ五百萬圓發行價格ハ百圓ニ付キ九十圓トシ其實收額ハ四百五十萬三千九百九十六圓ニ上リ第二回ハ發行額面高ハ一千萬圓發行價格ハ百圓ニ付キ九十圓トシ其實收高ハ九百萬六千八百八十四圓ニ上リ第三回ノ發行額面ハ五百萬圓發行價格ハ百圓ニ付キ九十五圓ニ改メ其實收高ハ四百七十八萬四千六百八十八圓ニ上レリ

明治十九年ヨリ二十年マテ四回ニ發行セル海軍公債第一回ノ發行高ハ五百萬圓ニシテ實收高ハ五百十八萬七千八百圓ニ上リ其最高價格ノ百圓ニ對シ百十圓ノ多キニ上リタリ(第二回以下省略)

明治十九年ヨリ二十五年マテ前後八回ニ發行セル整理公債ハ第一回ニハ百圓ニ付キ發行價格九十八圓ト爲シ他ハ總テ平價發行ト爲セシカ實收高ハ常ニ百圓ニ超過スルコト四五錢ヨリ多キハ三圓餘ニ達シタリ

明治二十二年發行セル鐵道費補充公債ノ如キハ平價發行ナリシモ實收額ハ百圓ニ付キ百三圓十五錢強ニ上リ募集額ニ超過スルコト七千〇九十一圓ニ達シタリ

其他鐵道公債軍事公債等何レモ低價遞減法ニ依リ皆多少ノ成效ヲ見ルニ至レリ然レトモ注意ヲ要スヘキハ低價遞減法ヲ用ヒテ之ニ因リテ削減セラレル申込額ノ大ナル丈ケ又其最高價格申込ノ高ナル丈ケ一方ニハ政府カ公債ノ募集ニ對シ低價高利ノ甚シカラシコトヲ證明スルコトニシテ高價遞減法ノ成效大ナル丈ケ政府當初ノ豫定ノ事實ニ違カルコトヲ現ハスモノナリ高價遞減法トハ應募高募集高ニ超過スルトキニ一定ノ申込額以上ノモノニ限リ其申込高ニ比例シテ之ヲ削減スルモノニシテ又小額無減法小額發行法ト曰フ此方法ハ主トシテ社會政策主義ヲ加味セルモノニシテ下級人民ノ手ニ落ツル所ノ證書ノ數ヲ増加シ應募者ノ數ヲ大ニシテ公債證書ノ普及ヲ期スル方策ナリトス即チ一方ニハ漸次下級人民ヲシテ貯蓄獎勵ノ端緒ヲ發シ一方ニハ一部ノ資本家ノ投機ノ具ト爲ルコトナク之カ證書ノ普及ハ之ニ對スル利害關係

者ノ數ヲ増スニ外ナラサルヲ以テ政府ノ信用社會ノ安寧維持ニ對シ又多少ノ效果ナシトセス此法ハ佛蘭西ニ於テ最も多用ヒラレ我國ニ在リテモ整理公債ノ普通募集ノ場合ノ如キ又等シク此法ヲ行ヒタリ

第三節 公債ノ條件ヲ標準ト爲ス公債募集方法ノ分類

第一款 割増平價及ヒ割引發行法

割増發行法トハ額面高以上ノ價格ヲ以テ發行スルモノニシテ募集高價還高ヨリ大ナル場合ナリトス此方法ハ其他ノ條件ノ如何ニ依リ又ハ市場遊金ノ多少公債其モノノ性質政府ノ信用ノ大小等ニ依リ此ヲ起スコトヲ得タルニ非ナレトモ徒ニ人民ノ感情ヲ害スルノ嫌ナシト爲ササルノミナラス寧ロ利子其他ノ條件ヲ變更シテ平價發行ヲ爲シ得ヘキモノナルヲ以テ實際ニ殆ト其例ヲ見サル所ナリトス

平價發行法トハ額面高ヲ以テ發行スルモノニシテ募集高ト價還高ト相等シキ場合ナリトス

割引發行法トハ額面高以下ノ價格ヲ以テ發行スルモノニシテ募集高償還高ヨリ小ナル場合ニシテ又呼價發行法ト稱セラルルモノナリ蓋シ割引發行ノ必要ハ多ク政府發行ノ公債ノ利子カ一般市場ノ利子ヨリ低キカ若クハ募集ノ結果市場ノ利息昂騰シテ公債ノ利息ヨリ上ルヘキ場合カ或ハ政府ノ信用薄弱ナル等總テ募集困難ノ際ニ於ケル一ノ調和策トシテ用ヒラルルモノニシテ近時ハ一般ニ利子其モノノ歩合ヲ變更スル代リニ割引ノ高低ヲ爲スモノ亦尠シト爲ザス今其利益ナリトスル重ナル點ヲ舉クレハ次ノ如シ

第一 割引發行ノ場合ニハ低償還減法ニ依リテ實際豫定ノ價格ヨリ多額ノ實收額ヲ得ヘキコト

北米合衆國ニ於テ大藏大臣ガラテン氏二百萬弗ノ公債ヲ募集スルニ際シ額面百弗ニ付キ總テ九十三弗ノ割引價格ヲ以テ申込價格ニハ額面百弗ニ付キ平價ヨリ九十三弗マタノ等差アリシモ總テ之ヲ九十三弗ニテ發行シタリ然レトモ此ノ如キ極端ナル公平ハ商業上ニ於テ行ハルルコトナキノミナラス經濟上需要供給ノ原則ニ依ルモ強テ九十三弗ニ一致セシムルコトハ却

テ公平ノ實ヲ舉グルモノト謂フヘカラス如何トナレハ應募者ノ各自其融通シ得ル資本ニ對スル事情國債ノ信用利益ニ對スル需要ノ程度ハ各自其趣ヲ異ニスルノミナラス公債其モノノ價格ハ他ノ貨物ノ價格ノ如ク精確ヲ得ヘキモノニ非サレハナリ故ニ此ノ如キ極端ナル例ハ一般ニ執ラサル所ニシテ隨テ低償還減法ニ依リ多額ノ實收額ヲ見ルコト其例多シト爲スモノナリ

第二 割引發行ハ平價發行法ヨリモ利子低廉ナルカ故ニ外見ニ於テ政府ノ信用大ナルカ如キ觀アルコト

第三 利子ノ歩合比較的低下ナルニ由リ表面上人民ノ負擔上一般ノ感情ヲ害スルコト少キコト

第四 利息制限法ニ依リテ平價募集ヲ爲ス能ハサル場合ニ於ケル調和ノ手段ト爲ルコト

第五 平價發行法ニ比シテ政府ノ實收額大ナルコトヲ得ヘシ即チ今平價發行ノトキハAナル額ニ對シ五分利附ナリトシ之ヲBナル額ニ割引スルトキハ四分利附ト爲ルヘキ場合ニ於テハ事實四分利附ニテBナル額マテ割引スルコト

ヲ要セスBヨリ多キ額ニテ猶ホ四分利附ヲ以テ募集スルコトヲ得ヘキコト
割引發行法ハ英國ニ於テ北米合衆國獨立戰爭ノ後、ワシントン「當時國
事多端ニシテ利息ノ歩合高キヨリ利息制限法ヲ避クルカ爲メ實收高百磅ニ對
シ三分利附ノ百八十磅或ハ百九十磅ノ證書ヲ發行セルニ始マリ爾後各國ニ於
テ盛行ハルル所ナリ殊ニ英國ノ如キハ此外平價發行法ニ年金ヲ附帶シテ事
實上割引發行法ヲ行ヒ千八百五十五年クリミヤ戰爭ノ爲メ起セシ一億六千萬
圓ノ公債ニ二分ノ利子ヲ附シ千圓ノ拂込ニ對シテ三十年間七圓二十四錢ノ年
金ヲ附スルカ如キ近時ニ至ルモ猶ホ此錯雜ニシテ弊害多キ方法ヲ慣行セリ我
邦ニ於テ明治十一年ノ超業公債ニ於テハ六分利附ニテ額面百圓ニ付キ八十
圓ノ割引發行法ヲ行ヒ近時軍事公債ニ至ルマテ割引發行法ヲ行ヘル例尠シト
爲ナス

割引發行法ニ於テ前掲利益アリト爲ス點ハ第一ノ如キ平價發行法ニ於テモ等
シク低額遞減法ヲ行フコトヲ得ヘキヲ以テ割増發行法ニ特有ノ利益ト爲スヘ
キノミナラス第二第三ノ如キハ固ヨリ表面上一時ノ利益ノ假現ニシテ却テ後

來ニ重大ナル害毒ヲ貽スモノタリ又第四ノ如キハ昔時利息制限法ノ規程存セ
シ時代ニ於ケル理由ノ一タルヲ失ハサルヘキモ今日ニ於テハ利息制限法其モ
ノカ一般ニ認メラレサルヲ以テ復タ割増發行法ノ利益ト認ムヘカラス而シテ
第五ハ結局一種ノ割増公債ト同シク應募者ニ於ケル射利心投機心ヲ利用スル
モノナリ即チ平價發行ノトキハ平價以上ニ上ルトキハ政府ハ進ミテ借換ヲ行
ヒ其價格ノ變動ヲ防クコトヲ得ヘキニ依リ割引發行ノ場合ノ如ク變動ノ區域
大ナルコトヲ得ス又平價發行ノ證書ノ利子ハ高シトモ割引價格ト償還價格ノ
差異ニ由ル利益ノ如ク大ナルヲ得ス而シテ年年抽籤ニ由ル償還ニ因リ應募者
カ早ク當籤スヘシトノ僥倖心ニ由リ平價發行ノ場合ヨリ利子及ヒ割引額ノ歩
合ニ因リテ多少ノ利益ヲ得ルコトナント爲サス即チ眞ニ貯蓄ノ方便トシ資本
ノ利殖ノ方便ト爲ス者ニ在リテハ利害關係尠キモ其證書價格ノ高低ニ依リテ
利益ヲ博セントスル投機者流ノ最モ歡迎スル所タルヘキハ又言フ埃タサル
ナリ

割引發行法カ一時利子ノ支拂ヲ輕減シ時ニ平價發行ヨリモ多少ノ實收ヲ増ス

「キハ事實ナリト雖モ之ニ伴フ弊害ハ遙ニ之カ利益ヲ超過スルモノナリ如何
トナレハ居常多少ノ利子支拂ニ於テ輕減セラルルモノハ償還ノ際ニ於テ一時
ニ巨額ノ支拂ヲ爲スヘキモタルヲ以テ此カ償還ノ時期漸次延期セラレ償還
ノ困難ヲ助長スルハ定期公債ノ下ニ於テ述ヘタル所ト異ナルコトナシ而シテ
其最モ通弊ト爲ス所ハ此カ借換ノ困難ナルニ在リ割引發行法ノ利子ハ市場ノ
利子ヨリ歩合低キノミナラス公債募集後市場平穩ト爲リ年々逡々金利漸次
下落スレハ平價發行法ニ依ルモノハ便宜之カ借換ヲ爲シ得ルニ拘ラス割引發
行法ニ在リテハ之カ利便ヲ失ヒ平價發行法ノ場合ニ比シテ多少ノ損害ヲ甘ン
スヘキ觀ヲ生シ結局未來ニ重大ナル義務ヲ殘スコト平價發行法ヨリ大ナリト
謂ハスンハ非ス北米合衆國ノ如キ割引發行法ノ比較的無事ニ償還セラルルハ
一方ニハ其發行度數少キト一方ニハ産業隆盛ニシテ民富遞増シ國庫ノ剩餘金
又多キニ由ルモノニシテ千八百六十六年「ラテン」氏ノ財政報告ニ於テハ割引發行
法ノ公債償還ニ阻碍ヲ與フルコト大ナルコトヲ論シ三分利附公債ニ或變更ヲ
行フヘキ權限ヲ與ヘラレンコトヲ請ヘリ而シテ之ヲ歐洲各國ノ實例ニ徵スレ

ハ近時公債ハ巨額ニ累積シテ久シク償却セラルルコトナク「ルロア、ボリユー」氏
ノ如キ歐洲諸國ノ公債ノ永續スルコトハ其原因專ラ割引發行法ニ存スルモノ
ナリト言フニ至レリ

第二款 籤札附發行法

籤札附發行法トハ證書ニ籤札又花札ト曰フヲ附シ利拂ノトキ證書ノ所有者ニ
抽籤ヲ行ハシメ其當籤者ニハ所定ノ利子ノ外更ニ若干ノ金額ヲ與フルノ方法
ナリ其人民ノ射倖心ヲ目的ト爲スハ割引發行法年金附發行法ト相異ナルコト
ナク其利害問題モ亦絕對ニ之ヲ論定シ難キコトハ上述スル所ナリ本論ニ就テ
ハ既ニ前章確定公債中割増公債ノ下ニ於テ其大要ヲ説明シタルヲ以テ此ニ之
ヲ略ス

第三款 償還基金又ハ抵當物附發行法

公債ハ其募集ノ當時元利支拂ノ方法等ニ付キ精確ナル計畫ヲ豫算スヘキコト

固ヨリ嘗テ埃タス而シテ往時信用未タ鞏固ナラサル時代ニ在リテハ債權者ニ對スル元利支拂ノ法トシテ償還基金ノ法ヲ設クルヲ例トシ英國ノ如キハ今日ニ於テ猶ホ此方法ヲ牢守セリ其設定ノ方法ハ成ハ當初ヨリ募集金ノ幾分ヲ割キ利倍増殖ノ法ニ依ルアリ或ハ特別ノ租稅ヲ以テ之ニ充ツルアリ或ハ一般收入ノ一部ヲ割キテ之ニ充ツルアリ英國ノ如キハ當初各公債ニ應ゼテ各特種ノ租稅ヲ以テ特別基金ト爲セシモ其煩雜不便ヲ避クル爲メ千七百十五年ヨリ特別基金ヲ合シテ一基金トシ便宜各種ノ公債ヲ償還スルコトト爲セリ

抵當物ヲ附スルノ法ハ又往時一般ニ行ハレシ法ナリト雖モ今日ニ於テハ唯財政ノ薄弱ナル政府ニ貸與スル外國債ニ於テ之ヲ見ルニ過キス我邦ニ在リテモ維新前諸侯カ金主ヨリ借財ヲ爲ストキハ多ク物品稅ヲ抵當ト爲スヲ例ト爲シタリ方今ニ在リテ信用ノ發達上一般ニ抵當物ヲ附スルコトナキモ事業公債ノ類ハ其事業ノ收益ニ依リテ之カ元利ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ得ヘキモノナルヲ以テ其事業自體ヲ間接ノ擔保タルヘキモノナルニ由リ一般ニ他ノ公債ニ比シ起債力大ナリトス

各藩ノ租稅ハ概テ物品稅ニシテ此物品ノ處分ニ付テハ各藩多少ノ相違アレトモ要スルニ其物品ハ商賈ニ賣却スルコトナルカ何レノ藩ト雖モ收入ノ大部分ハ江戸邸並ニ參勤交代ノ費用ト公役金賦課ニ費消セラレテ租稅收納前既ニ早ク借金ヲセサル者ナケレハ其收納物ハ之カ償却ニ仕向クルモノ多シ而シテ西國ノ諸侯ハ勿論其他ノ藩ト雖モ其債主ナルモノハ概テ大坂ニ在リテ收納物ハ皆大坂ニ運搬シ其之ヲ處分スルニ付テモ直チニ抵當物ナリトテ債主ニ引渡スヘ藩ノ不面目ナリトシ各藩各自ニ賣却スルカノ如ク毀フモ實際ハ債主ニ差押ヘラレタルト同一ノ結果ヲ以テ賣捌クナリ(中略)

當時ニ在リテハ其藩ノ財政好都合ナル時ハ抵當ヲ要セサルモ然ラザルトキハ皆抵當ナキハナシ左レト質物ノ如ク物品ヲ送ルニ非ス今同ノ借財ニ對シテハ何ノ租稅ヲ引當トセン或ハ平年大坂ニ輸送スル米ハ何萬石ナルモ何萬石ニ増加スヘシト片約束ノ如キコトヲ爲ス然ルニ其實當時ニ在リテハ相互ノ約束ト異ナルコトナク又引當ト稱スルハ今ノ抵當ト相同シキモノナリ云

云國家學會雜誌第百三十七號末松博士ノ封建時代ノ財政變遷

減價基金法ノ不可ナルコトハ公債ノ管理及ヒ償還ノ章ニ於テ之ヲ論述スル所アルヘキヲ以テ此ニハ其大略ヲ述フルニ止ムヘシ由來減價基金法ハ無用ニ巨額ノ資金遊金ト爲スノミナラス事實此法ノ設定ハ債權者ヲ以テ必ス此基金ヨリ其負債ヲ支拂ハシムル權利ヲ與フルモノニ非スシテ政府ハ財政上此基金ヲ他ニ流用シ得ヘキモノナレハ單ニ名義上債權者ニ多少ノ安心ヲ與フルニ過キサルモノナリトス隨テ政府ノ信用發達セル今日ニ於テ特ニ此等姑息ノ手段ヲ用フルマテモナク歳入ノ剩餘又ハ當該年度ノ特別收入アル場合其他財政ノ緩急ニ應シテ之カ償却ヲ爲スヲ以テ足レリト爲スモノナリ彼ノ抵當物ヲ附スルカ如キモ其抵當物ハ私人小額ノ取引ノ擔保ト爲ル場合ト異ナリ巨額ヲ要スルモノナルヲ以テ性質上無効ニ陷ル場合多シ秘密ノダツノ爲義王耳其ノアナルヲ一ノ羊ノ如キ此類ナリ

第四款 記名發行法及ヒ無記名發行法

公債證書ヲシテ其法價ヲ維持シ之カ利便ヲ大ナラシメンニハ先ツ此カ利用處

通ノ便ヲ開カスンハ非ス即チ單ニ普通ノ指名債權ト異ナリテ賣買取引ニ利用セシメ商事契約ノ擔保品ト爲ナシメ紙幣發行ノ準備タラシムル等總テ金融上ノ利器トシテ此カ移轉ノ便ヲ計ルコトヲ要ス近時無期ノ公債認メラルルニ至リテハ殊ニ其必要大ヲ加ヘ無記名ノ制ハ廣ク行ハルル所ト爲レリ各國ノ法律又之ニ對シ多ク動産ト同一ニ看做シ交換ノ媒介トシテハ紙幣ト殆ト同一ノ機能ヲ有スルニ至レリ然レトモ一方ニハ公債其モノノ移轉ヲ望ムコトナク單ニ利息ノ收入ヲ以テ足レリト爲ス者ニ對シテハ記名ノ制ハ火災盜難紛失毀損等ノ危險ニ對シ一ノ保障ト爲ルヘキヲ以テ又無用ナリト謂フヘカラス隨テ所有者ノ請求ニ因リ一定ノ手数料ヲ附シテ記名又ハ無記名ト爲スコト最モ便利ニシテ各國ニ於テ又遍ク行ハルル所ナリ

第五款 募集ノ回數及ヒ拂込ノ多少ヲ標準ト爲ス法

募集ノ回數少ケレハ拂込高多ク募集ノ回數多ケレハ拂込高少シ而シテ募集ノ回數ノ多少換言スレハ一時ニ公債ヲ募集スヘキカ漸次ニ公債ヲ募集スヘキ

カハ主觀的ニハ其需要ノ緩急ニ支配セラレ客觀的ニハ供給ノ狀況ニ支配セラレ蓋シ一時募集ノ法ハ市場ノ狀況ニ由リ稀ニ漸次募集ヲ爲シ難キ場合又ハ其公債ハ戰爭事變ニ際シ一時ニ總額ノ需要急迫ヲ告グルカ如キ例外ノ場合ヲ除クノ外ハ勉メテ避クヘキ手段タリ是レ一方ニハ一時ニ巨額ノ流通資本ヲ吸收シテ金融市場ノ擾亂ヲ來スヘク一方ニハ急促ノ需要ナキ資金ニ對シテ等シク無用ノ利子ヲ支出スルモノナレハナリ漸次ノ募集方法ニ於テモ猶ホ其募集同數ノ多寡ニ伴ヒ拂込高ニ大小ノ差異ヲ來スヘキコト固ヨリ言フ埃タス同數ヲ多クスルハ下級人民ノ貯蓄獎勵ノ一法タルハ高額遞減法ト同一ノ主旨ニ出ツルモ一方ニハ拂込ノ手續ヲ重キルノ不便アリ我邦ノ如キハ多ク二回乃至五回ヲ平均ト爲スモ佛蘭西ノ如キハ下級人民ノ貯蓄心厚ク政府亦此カ獎勵ニ留意スルヲ以テ通常募集ノ同數十回ニ亘ルヲ例ト爲シ普佛戰爭ノ際十二億圓ノ國債ヲ募集セシ場合ノ如キ拂込ノ度數ハ二十一回ノ多キニ上レリ蓋シ募集ノ同數ハ市場ノ狀況募集額國債ノ性質等各種ノ點ニ由リ多少ノ斟酌ヲ加フヘキモ成ルヘク其同數ヲ多クシテ下級人民ヲシテ此カ募集ニ應スルノ便ヲ開クハ社

會政策上喜フヘキコトナリトス

募集同數ノ多少ニ拘ラス此カ拂込ノ當初ニ際シ保證拂ノ制ヲ設クルハ各國共ニ一致スル所ナリ保證拂トハ公債ノ申込ヲ爲ス時同時ニ申込ノ保證トシテ其申込高ノ一部ヲ拂込マシムルノ法ニシテ申込後市場ノ狀況應募者自體ノ都合上之カ拂込ヲ怠リ政府當初ノ目的ヲ誤リ再ヒ不足ノ部分ニ達シテ募集ノ手續ヲ重キルノ弊害ヲ避クルカ爲メニシテ各國保證拂ノ額ハ其申込額ノ一割ヲ以テ例ト爲セリ普佛戰爭ノ際ハ戰時ニ際シ此カ拂込ノ確實ヲ期スルコト必要ナルニ於テ拂込ヲ爲ササルトキハ之ニ若干ノ期間ノ猶豫ヲ與ヘ其期間中ニ拂込ヲ爲ストキハ之ニ其遲延利子ヲ附スルコトヲ條件トシ此期限ニ至リテ猶ホ拂込ヲ爲ササルトキハ之ヲ沒收スルヲ例トス整理公債條例第八條參照是レ一般株式會社ノ株式申込ニ於テモ等シク見ル所ニシテ數次ノ拂込ニ對シテ當然伴フヘキ制度ナリトス

公債ハ汎ク社會ノ階級ニ普及セラルルモノナルヤ又普及シ得ヘキモノナルヤ若シ普及シ得ヘントスレハ社會現象トシテ喜フヘキモノナルヤ此等ハ財

政上經濟上政治上ニ通シテ最モ重要ナル問題ニ屬セリ茲ニ之ヲ詳論スルコトヲ得サルハ余輩ノ甚タ遺憾ト爲ス所ナレトモ左ニアダムス氏ノ所見ノ一片ヲ摘載シ公債ノ分配ニ關スル研究ノ實ニ供スヘシ但シ氏ノ所論ニ對シ全然同意ヲ表シ難キ點アルハ余輩ノ上述スル所ニ據リ自ラ明カナルヘシ、公債ニ伴フ社會的勢力ハ公債ノ所有者カ國民間ニ分配スル有様ニ依リテ定マルモノナリ公債ノ所有者廣ク國民間ニ普及スルハ政治上產業上社會ノ健全ナル狀態ヲ示スモノナリトハ普ク世上ニ行ハルル一說ナリ例ヘハ佛國ニ於テハ多數ノ國民公債ヲ所有スルハ佛國ノ學者常ニ自贊スル所ニシテ彼等ノ所謂平民的ノ公債ト稱スルモノナリ即チ一千八百七十年ヨリ一千八百七十六年ニ至ル六年間佛國ニ於テ發行シタル公債ノ額ハ從前ニ二倍シ公債所有者ノ數ハ四倍ニ上リ一千八百七十六年十二月三十一日ニ於テハ公債所有者ノ人員ハ四百四十萬四千七百六十三人ノ多キニ達セリト云ヘリ然レトモ之ヲ純然タル財政上ノ點ヨリ觀察スルトキハ公債ノ所有者一般ニ普及スルハ必スシモ喜フヘキコトニ非ス公債所有者ノ人員多キトキハ當ニ公債取扱上

ノ費用ト手續トヲ増加スルノミナラス政治家ニ黨派若クハ自己ノ便利ノ爲メニ公債所有者ヲ利用スルノ便ヲ與ヘ財政家ノ目的ヲ阻害スルコトアリ現ニ佛國ニ於テ政府ハ公債所有者ノ投票ヲ失ハシコトヲ恐レ公債ノ借換ヲ爲サス數年間一般ノ利率ヨリ高キ利息ヲ公債ニ支拂ヒタルコトアリ又經濟上ヨリ論スルモ公債ノ普及スルハ必スシモ賞賛スヘキモノニ非ス蓋シ全國民總テ生産的ノ事業ニ熱中スルハ是レ經濟社會ノ健全ナル狀態ナリ故ニ公債ノ利子ヲ國家ヨリ受取リ安逸ノ生計ヲ爲ス者多キトキハ國家ハ經濟上國民ノ活動ヨリ生スル利益ヲ失フモノニシテ公債所有ノ一般ニ普及スルコトヲ可ト爲ス者ハ全ク社會的ノ思想ニ基ケルモノト謂ハサルヘカラス

第五章 公債ノ管理

第一節 緒論

公債ノ管理ナル意義ハ之ヲ廣義ニ用フルトキハ凡ソ三部ニ分ツコトヲ得ヘシ公債ノ募集公債ノ變更及ヒ公債ノ償還是ナリ之ヲ狹義ニ用フルトキハ其一部

タル公債ノ變更ノミヲ意味スルモノニシテ予ハ茲ニ公債ノ管理ナル意義ヲ狹義ニ用ヒ公債ノ募集及ヒ公債ノ償還ニ至リテハ之ヲ前章及ヒ次章ニ於テ講述スルコトト爲セリ

公債ニ關スル政府財政上ノ行動ハ最少ノ勞費ヲ以テ最大ノ利益ヲ得ルヲ目的ト爲スヘキハ言ヲ竣タサル所ナリ而シテ此目的ヲ達スルカ爲メ公債ノ募集及ヒ償還以外ニ新ニ公債變更ノ手段ヲ用フルニ至リシハ近時公債ノ發達ニ伴フ特徵ノ一ニ算定セシムハ非ス蓋シ茲ニ公債ノ變更ト稱スルハ在來ノ契約ノ形式ノ變更ヲ指スモノニシテ元金利子ノ歩合償還及ヒ支拂期限據置期間擔保額札等凡テ公債ノ體様ノ一ヲ變更スルモ又公債ノ變更ニ外ナラサルモ所謂最少ノ勞費ヲ以テ最大ノ利益ヲ得ヘキ財政上ノ手段ニ至リテハ常ニ利子ノ歩合ノ變更ニ在リ故ニ學者或ハ公債ノ變更ト稱セシテ公債ノ借換又ハ公債利子ノ管理ト稱スルコトアリ

〔ヘンリー・シアダムス氏ノ如キモ亦利子ノ低減ヲ主トシ公債ノ元利償還ハ絶エス國民ニ負擔ヲ貽スモノナルヲ以テ財政家ハ正當ノ手段ニ依リテ此負擔

ノ輕減ヲ計ルヘキモノナリトシ此目的ニ由リ政府カ公債ヲ管理スルニハ左ノ三箇ノ理想ニ據ルヘキモノト爲セリ

一 平時公債ヲ利用スル方法アルトキハ公債ノ弊害ヲ除去シ此カ效驗ヲ大ニスルコトヲ得ヘシ

即チ公債ノ利用ト稱スヘキモノニシテ氏ハ主トシテ公債ヲ以テ銀行ノ紙幣發行ノ準備ト爲スコト商業上ノ擔保品トシテ利用スルコト利子ノ期限前拂臨時ノ公債買上等ニ因ル金融市場ノ救済等ヲ論述セリ

二 公債ノ利率ヲ低減スルコトヲ得ハ公債ノ負擔ヲ減少スルコトヲ得ヘシ

即チ氏カ公債ノ借換ト稱スルモノニシテ本章ニ於テ主トシテ講述スルモノナリ

三 公債ノ負擔ハ借入レタル元金ノ償還ニ因リテ之ヲ除去スルコトヲ得ヘシ

即チ氏カ公債ノ償還ト稱スルモノニシテ次章ニ於テ講述スヘキモノナ

公債ノ利子ノ變更ハ之ヲ大別シテ公債ノ借換及ヒ公債ノ利子引下ノ二者ト爲スコトヲ得ヘシ而シテ共ニ合法ナル場合ト違法ノ場合トアリ但シ公債ノ利子ノ引下ハ國家財政ノ非泥ニ陷リシ場合ノ窮策トシテ之ヲ例外ト爲シ公債ノ借換ヲ以テ公債管理ト殆ト同意義ニ用フルハ多クノ著書ニ於テ見ル所ナリ予ハ本章ニ於テハ第二節ニ於テ公債ノ借換第三節ニ於テ公債ノ利子引下ノ二者ヲ論シ序次ノ便宜ノ爲メ第四節ニ於テ公債ヲ課稅物件ト爲スノ可否ニ付キ一言スル所アルヘシ

第二節 公債ノ借換

公債ノ借換ハ又廣ク既ニ現存セル公債ノ形式ヲ變更スル財政上ノ處分ヲ意味スルコトアリ然レトモ茲ニ所謂公債ノ借換トハ高利ノ公債ヲ新ニ低利ノ公債ト交換スル財政上ノ處分ヲ謂フモノニシテ之ヲ借換ノ強制ニ依ルト隨意ニ依ルトニ由リ強制の公債ノ借換ト任意の公債ノ借換ト二種ニ分ツコトヲ得ヘク

又適法ニ公債ノ借換ヲ爲レ得ヘキモノナルヤ否ヤニ由リ合法的公債ノ借換ト違法的公債ノ借換ト二者ニ分ツコトヲ得ヘシ

第一 合法的公債ノ借換トハ借換ヲ要スル公債ノ體様カ借換ヲ爲スモ契約ノ條件ニ反スルコトナキ場合ヲ指スモノニシテ反面ヨリ觀察スレハ有期臨時支拂公債及ヒ永遠公債ノ据置期限ヲ經過セル場合ノ如ク政府力之カ償還ノ期限ニ對シ契約上毫無制限ヲ受ケサル場合ノ借換ヲ謂フ

第二 違法的公債ノ借換トハ借換ヲ要スル公債ノ體様カ借換ト相抵觸スル場合ヲ指スモノニシテ反面ヨリ觀察スレハ有期臨時支拂公債及ヒ永遠公債ノ据置期限内又ハ其他ノ公債ノ如ク政府力之カ償還ノ期限ニ對シ契約上既ニ制限ヲ受ケタル公債ノ借換ヲ謂フ

第三 強制の公債ノ借換トハ其借換ヲ要スル公債ノ合法ナルト違法ナルトヲ問ハス之カ債權者ニ元金ノ償還ヲ爲スコトナク總テ新公債ノ交換ヲ強制スル借換ヲ謂フ

第四 任意の公債ノ借換トハ其借換ヲ要スル公債ノ合法ナルト違法ナルトヲ

間ハス之カ債權者ニ元金ノ償還ト新公債ノ交付ニ對シ選擇ノ自由ヲ與ヘタル
借換ヲ謂フ

上述スル所ニ據リ公債ノ借換ニシテ合法ニシテ且ツ任意ナルトキハ常ニ債權
者ヲ害スルコトナクシテ人民ノ負擔ヲ輕減スルコトヲ得ヘタ財政ノ整理上重
要缺タヘカラサル行動ニ屬スルモノタリ然レトモ公債ノ借換ニ對シテハ國家
經濟上弊害アリト論スル者アリ其言ニ依レハ公債ノ利子低下スルトキハ之ト
共ニ一般營業上ノ利潤ヲ減シ一般産業ノ不振ヲ來スヘシト云フニ在リ此論者
ハ同一ノ根據ニ由リ營業上ノ利潤減スルトキハ物價ノ下落ヲ來シ社會全般ニ
利益アリト反論スル者ト俱ニ論理上前提ニ於テ誤レルモノナリ如何トナレハ
營業ノ利潤ノ高低ハ公債利子ノ上下ニ因リテ之ヲ左右シ得ヘキモノニ非サレ
ハナリ蓋シ公債ナルモノハ必スシモ同一ノ狀況ヲ有スル市場ニ於テ募集シ得
ヘキモノニ非ス政府ハ同一ノ信用ヲ有スルモ金融市場ノ狀勢ニ左右セラレ
ラ常ト爲シ殊ニ戰時事變等ニ際シテ然リトス此ノ如ク事情ヲ異ニシタル場合
ニ募集シタル公債換言スレハ利子ノ歩合異ナル各種ノ公債ノ存在ハ公債ノ價

格ノ變動ヲ來スノミナラス同一ノ政府ノ募集ニ係ル公債ニシテ或種類ノ者ハ
高タ或種類ノ者ハ低タ常ニ相統一スル所ナクシテ動搖常ナキハ政府ノ信用上
財政ノ整理上不可ナルコト言ヲ換タス隨テ公債ノ借換ノ利益ハ單ニ歳出ノ減
少人民負擔ノ輕減ノミニ止マルモノニ非ス

公債借換ノ條件ハ第一合法ナルコト即チ借換ヲ爲ス權利ヲ有スルコト(第二)債
權者ニ對シ元金ノ償還請求權ヲ認ムルコト即チ任意的借換ナルコト(第三)政府
ノ信用大ニシテ市場又好況ヲ呈スルコトノ三者ニ在リ蓋シ政府ニシテ公債ノ
借換ヲ強制スル場合ニ在リテハ固ヨリ條理ヲ破リシモノナルヲ以テ茲ニ之ヲ
論述スルノ要ナキモ苟モ任意的借換ヲ爲サンニハ事實借換ノ實效ヲ舉グルコ
トヲ期セシムルハ非ス故ニ一方ニハ政府ノ信用厚クシテ債權者カ政府ニ對スル
不安ノ念感ニ驅ラレテ之カ元金ノ償還ヲ求ムルカ如キコトナク一方ニハ金融
市場好況ヲ呈シテ金利亦低落セル場合ナラスンハ非ス任意借換ニシテ元金ノ
償還ヲ望ム者多キトキハ當ニ政府ノ信用ノ薄弱ヲ示スノミナラス財政ノ紊亂
ヲ來スヘキモノタルヲ以テ金融市場ノ狀勢ヨリ債權者ノ種類現存公債ノ市場

價格等ヲ對照シテ慎重ノ措置ヲ執ルコトヲ要ス普通各國ノ財政家ハ借換ノ標準トシテ其公債價格ノ平價ヨリ一割以上ニ上ルコトヲ條件ト爲スモノノ如シ價格下落ノ場合ニ借換シテ公債償還ノ義務ヲ拋棄シ政府破産ノ失態ヲ來セシハ既ニ佛蘭西大革命ノ際ニ於テ見ル所タリ

上述スル所ニ據リ公債ノ借換ハ新進國又ハ戰後平和ニ復舊セシ場合等ニ於テ最も多ク之カ適用ヲ見ルコトヲ得ヘキコトヲ知ルヘシ如何トナレハ其公債ノ利子ニ比シテ市場ノ利子下落スルコト多クハナリ現ニ我邦ノ如キ明治十九年一月以來兌換制度ヲ行ヒタルヨリ一般ノ金利假ニ下落シ六分以上利附ノ在來ノ諸公債ハ皆額面以上ノ價格ニ上騰スルニ至リシヲ以テ同年十月勅令第十六號ヲ以テ整理公債條例ヲ發布シ五分利附ニテ五箇年償還キ五十箇年ノ定期臨時支拂公債ト爲シ一億七千五百萬圓ヲ限リテ募集スルコトト爲シ明治二十六年ニ至リテ六分以上利附ノ公債ハ悉皆之ヲ償還シ了リ其間借換ノ爲メ生シタル利子ノ差益ハ二百五十萬圓ヲ上ルニ至リタリ

公債ノ借換ヲ行フニ當リ研究スヘキ問題ハ割増借換法ニ依ルヘキヤ割引借

換法ニ依ルヘキヤ又ハ平價借換法ニ依ルヘキヤニ在リ換言スレハ公債ノ借換ニ際シ元金ヲ減少スヘキカ増加スヘキカ又ハ同額ト爲スヘキヤニ在リ但シ割増借換法ハ利子ノ輕減ヨリハ寧ロ公債ノ元金ノ償却ヲ目的トスルモノニシテ割引借換法ハ利子歩合ノ點ヨリ多分借換ノ便宜ヲ得ヘキモ割引ニ因リ元金ヲ増加シテマタ借換ヲ爲ス必要ナク割引其モノノ不可ナルハ既ニ前章ニ於テ説明セル所ナリ彼ノ一千八百八十三年英國カ額面百磅三分利附ノ公債ヲ額面百八磅二分半利附ニ借換ヘシカ如キ正ニ此弊習ヲ襲ヒタルモノナリトス

公債借換ハ一千七百十六年始メテ行ハレシ以來現時各國財政ノ整理上此方法ニ依ラサルモノナシ茲ニ各國ニ於ケル公債借換ノ歴史ヲ叙述スルハ無用ノ業ニ非サルヘキモ寧ロ財政學ニ於テハ少シク餘論ニ奔ルノ嫌ナシト爲サルヲ以テ茲ニハ英國ハ借換ニ因リ大ニ經費ヲ節減スルコトヲ得シモ一方ニハ割引借換法鐵札附又ハ年金附公債發行ノ愚ヲ學ヒシ爲メ幾分カ借換ノ效驗ヲ削減シ佛蘭西ニテハ債權者カ多ク議會ニ勢力ヲ占メシヨリ公債ノ借

換ハ政府當初ノ契約ヲ無視シテ人權ヲ蹂躪シ中産以下ノ者ヲ苦厄ニ陥ルモ
ソナリトシテ一時借換ノ進歩ヲ妨ケシコトアルヲ一言スルニ止ムヘシ

第三節 公債利子ノ引下

茲ニ公債ノ利子ノ引下ト稱スルハ政府カ公債ノ管理上借換以外ノ方法ニ依リ
テ公債ノ體様ヲ變更スル重ナル場合ヲ指スモノニシテ通常借還期限ノ變更ト
相伴フヲ例ト爲スモノナリ

合法ニシテ且ツ任意ナル公債ノ借換ハ財政ノ整理上最も缺クヘカラサル手段
トシテ國家ノ信用ヲ増加スヘキ一手段タルニ拘ラス公債ノ利子ノ引下ニ至リ
テハ其合意ニ出ツルト強制ニ出ツルトニ論ナク常ニ財政逼迫ニ際セル不祥ノ
現象トシテ國家ノ信用ヲ減損スヘキ例外ノ手段タルヲ常ト爲スモノナリ蓋シ
國家ノ行動カ私人ノ行動ニ比シテ財政上特種ノ性質ヲ具スル所以ノモノハ一
ニ國家ト私人ト其信用ノ性質程度ヲ異ニスルニ存スルヲ以テ其當初ノ契約ノ
體様ヲ變更スルカ如キハ國家ノ信用自體ヲ根本ヨリ破毀スルモノニ外ナラサ

レハナリ

第一款 合意ニ出ツル利子引下

合意ト強制ト孰レカ條理ニ適フヘキヤ字義其モノノ解釋ヨリスルモ一見其是
非ヲ斷言スルニ疑ナキモノニ屬スルモ公債ノ契約變更ニ於テハ合意ニ出ツル
利子引下ハ却テ財政上ノ弊害大ナルモノアルヲ見ルハ又奇異ナル現象ト謂ハ
スルハ非ス然レトモ少シク其實例ニ就キ觀察スレハ合意ニ出ツル利子ノ引下
カ財政上却テ困難ヲ重スル所以ノモノ又之ヲ解スルニ苦シマサルヘシ今合意
ニ出ツル利子ノ引下ト強制ニ出ツル利子ノ引下ニ付キ重ナル相違ノ點ヲ舉ク
レハ次ノ如シ

合意ニ出ツル利子ノ引下ハ事實債權者ノ強制ニ起因スルコト多シ

強制ニ出ツル利子ノ引下ハ債務者ノ強制ニ起因スルヲ常トス
之ヲ公債其モノノ種別ニ依リ反面ヨリ觀察スレハ

合意ニ出ツル利子ノ引下ハ外國債ニ多ク

強制ニ出ツル利子ノ引下ハ内國債ヲ常トス

尙ホ之ヲ其經過ニ依リテ判斷スレハ

政府カ強制ニ出ツル利子ノ引下ヲ爲シテ債權者事實已ニナク默從シタルト

キハ強制ニ出ツル利子ノ引下成立シ若シ之ニ對シテ債權者反抗セルトキ又

ハ政府カ事實契約ノ不履行ニ基キ債權者進ミテ政府ニ交渉セルトキ合意ニ

出ツル利子引下成立ス

然レトモ予カ此論結ヲ下セルハ唯多數ノ場合ニ付テ言フモノニシテ當初ヨリ

當事者雙方ノ正當ノ合議ニ出ツル場合ナシト言フニ非ス而シテ若シ政府ノ財

政カ契約ノ履行ヲ難シト爲ストキハ所謂正當ノ合議ニ出ツル利子引下ハ又決

シテ非難スヘキモノニ非サルノミナラス好箇ノ方法ナリト謂ハスハ非ス如

何トナレハ政府不幸ニシテ財政逼迫シタルトキ強テ契約ノ履行ヲ爲サントセ

ハ却テ財政ノ紊亂ヲ累テ人民ノ負擔苛重ニ失シ國家全般ニ及ホス災害大ナル

ノミナラス債權者自體モ却テ得ル所ナキニ終ルヘキハ私人ノ債務關係ニ於テ

モ常ニ見ル所ニシテ此際成ハ利子ヲ引下ケ又ハ償還期限ノ延期ヲ爲スハ雙方

雜 報

○署名ノ意義 現行商法ニ所謂署名ノ意義ハ自筆ヲ指スモノナリト判斷シ

タル函館控訴院ノ判決ニ對スル上告論旨ノ大要ニ曰ク(署名ナル文字ハ從來

我法令ノ用例ニ於テ氏名自署ノ意義ヲ含マス此用例ハ現行商法上ニ於テモ亦

之ヲ變更シタリト認ムヘキ根據ナシ明治十五年第五七號布告舊商法第七〇一

條第七〇三條第七一五條第七一六條第八一一條(二)手形ノ作成ニハ代理人ヲ許

ササルモノニ非ス隨テ代理人ヲシテ本人ノ名ヲ記セシムルモ不當ナリト謂フ

ヘカラス明治十年第五〇號布告(明治三十三年法律第十七號ハ商法ニ所謂署

名ノ意義ヲ決シタルモノニ非ス商法ノ法文ノ意義ハ商法實施ノ當時既ニ確定

セルモノナリ(四英國手形條例一八八二年第九十一條ニハ自筆タルコトヲ要セ

ストシ獨逸手形法第四條ニ於テハ署名ヲ要件トセルニ拘ハラス本人ノ自署タ

ルコトヲ要セサルコトハ同國商事高等法院ノ千八百七十二年三月十二日ノ判

決ヲ以テ確定シ且同國學者ノ見解一致セル所ナリ此等ニ據ルモ我現行商法カ

捺印制ヲ廢シタルカ故ニ署名ノ用例ヲ變シタルモノト謂フコトヲ得スト之ニ對シ大審院ハ適正ナル説明ヲ與ヘテ曰ク署名捺印ヲ以テ要式證券ノ成立條件トシタル規定ノ下ニ在リテハ任意ニ捺印シタル事實ノ認ムヘキモノアルトキハ證券ノ成立ハ作成者ノ意思ニ因レルモノナルコトヲ推定セシムヘキカ故ニ其自署ニ非サル記名存スルトキト雖モ證券ノ成立ヲ證明スルニ足ルヘシ然レトモ證券ニ捺印スルコトヲ以テ其成立條件ト爲サスシテ作成者ノ署名ノミヲ以テ條件トシタル場合ニ於テハ其署名即チ自署アルニ非サレハ證券ニ依ル意思表示カ果シテ其作成者ノ任意ニ因レルモノナルヤ否ヲ決シ難シ故ニ從來慣用ノ捺印主義ヲ捨テ専ラ署名ノミニ重キヲ置キタル改正商法中署名ヲ以テ證券成立ノ條件トシタル規定ニ於ケル署名トハ自署ノ義ニシテ單ニ記名ノミヲ以テ足レリトスル意義ニ非サル法意ナリト解釋セサルヘカラス蓋シ署名ノミヲ以テ證券作成者ノ意思表示ヲ標徴スヘシトセル法規ノ下ニ於テモ自署ハ必要ナラスト云フ說ハ證券ノ責任ノ氏名又ハ商號ヲ印刷シ證券ニ載セタルトキト雖モ尙ホ有效ノ成立ヲ認ムヘシト云フ如キ全然立法ノ趣旨ニ反スル結論ヲ

是認セサルヘカラサルニ至ルヲ以テ固ヨリ採ルニ足ラサルモノトス（大審院三十五年三月三十一日第一民事部判決）（三十二年七月六日讀賣新聞梅博士論文法學志林第一二號洋洋學人署名ニ關スル考證參考）

○舊商法ノ下ニ於ケル會社ノ登記前ノ株式讓渡 舊商法第八十條ノ解釋ニ付キ嘗テ大審院ハ頗ル了解シ難キ判決ヲ下サレタリシカ（明治三十四年三月二十日第一民事部判決）過般更ニ下ノ如ク解釋セラレタリ曰ク舊商法第八十條ヲ以テ會社登記前ノ株式ノ讓渡ハ無効ナリト規定シ別ニ其例外ヲ認メサルノミナラス其第二百十四條及第二百五條ヲ以テ會社登記後ニ非サレハ發行スルコトヲ得サル株式ノ公賣及其結果ノ責任ニ付キテハ特別ノ規定ヲ設ケタリト雖モ會社登記以前ノ株式ノ公賣等ニ關シテハ何等ノ規定ヲ設ケサルニ由リテ之ヲ觀レハ株式會社登記前ノ株式ノ讓渡ハ其普通ノ買賣タルト公賣タルトヲ問ハス將又其任意タルト強制タルトヲ論セス凡テ絕對ニ無効タラシムルハ舊商法ノ精神ナリト解釋セサルヲ得ス蓋舊商法ハ株式會社ノ設立又ハ株式ノ申込ヲ以テ徒ニ射利ノ手段ト爲スル徒アルヲ慮リ全ク之ヲ防遏スル爲メニ

斯ハ如ク絕對無効ハ規定ヲ設ケタルモノナリ而シテ本件ノ如キ株式ノ公賣ト雖モ之ヲ許ストキハ法律ノ防遏セント欲スル目的ヲ害スルコトナキヲ必セサルヲ以テ固ヨリ法律ノ許ササル所ナリト謂ハサル可ラズ故ニ原判決ヲ舊商法第百八十條ヲ解釋シテ總テノ讓渡ヲ無効ト爲スノ意義ナリト爲シタルハ相當ニシテ云云ト大審院明治三十五年(十)第三百六十一號未拂株式公賣不足金還○他所拂手形ト拒絕證書ノ作成手形ニ支拂拒絕證書作成免除ノ記載アルトキニ於テモ所謂他所拂手形ナル場合ニ於テハ拒絕證書ヲ作成セサルヘカラストノ上告論旨ニ對スル大審院ノ說明ニ曰ク商法第四百九十條ノ法意ハ他所拂手形ニ付テハ拒絕證書作成ノ免除アリタル場合ト雖モ所持人カ裏書人ニ對シテ償還請求ヲ爲サント欲スルトキハ之ヲ作成スルコトヲ要スル旨規定シタルニ非ス唯他所拂ノ手形ニ付テハ手形ノ呈示及ヒ拒絕證書ノ作成ハ支拂人ノ營業所若クハ住所ニ於テセスシテ支拂地ニ於テスルコトヲ要スル旨即チ同法第四百四十二條ノ除外例ヲ示シタルニ外ナラスト大審院明治三十五年(十)第三百六十一號未拂株式公賣不足金還第二十一日第一民事部判決ニ依リ以テ同旨ニ決スルモノナリ

(注意) 校外生月納付金ハ必ズ本校ノ規定ノ月納付金ニ準ジテ納入スルモノナリ月納付金ノ納入シタル者ハ本校ノ規定ノ月納付金ニ準ジテ納入スルモノナリ

納付書

金額()

一金

但三十五年度第 學年 月分月納

右納付候也

居所

明治三十年 月 日

和佛法學學校會計局御中

納付書

金額()

一金

但三十五年度第 學年 月分月納

右納付候也

居所

明治三十年 月 日

和佛法學學校會計局御中

斯ハ如ク絶對無効ノ規定ヲ設ケタルモノナリ而シテ本件ノ如キ株式ノ公賣ト雖モ之ヲ許ストキハ法律ノ防遏セント欲スル目的ヲ害スルコトナキヲ必セサルヲ以テ固ヨリ法律ノ許ササル所ナリト謂ハサル可ラス故ニ原判決カ舊商法第百八十條ヲ解釋シテ總テノ讓渡ヲ無効ト爲スノ意義ナリト爲シタルハ相當ニシテ云云ト(大審院明治三十五年(一)第三百六十一號未拂株式公賣不足金運)○他所拂手形ト拒絕證書ノ作成 手形ニ支拂拒絕證書作成免除ノ記載アルトキニ於テモ所謂他所拂手形ナル場合ニ於テハ拒絕證書ヲ作成セサルヘカラストノ上告論旨ニ對スル大審院ノ説明ニ曰ク商法第四百九十條ノ法意ハ他所拂ノ手形ニ付テハ拒絕證書作成ノ免除アリタル場合ト雖モ所持人カ裏書人ニ對シテ償還請求ヲ爲サント欲スルトキハ之ヲ作成スルコトヲ要スル旨規定シタルニ非ス唯他所拂ノ手形ニ付テハ手形ノ呈示及ヒ拒絕證書ノ作成ハ支拂人ノ營業所若クハ住所ニ於テセスシテ支拂地ニ於テスルコトヲ要スル旨即チ同法第四百四十二條ノ除外例ヲ示シタルニ外ナラスト(大審院明治三十五年(一)第三十事件明治三十五年(十)月二日第一民事部判決)

(注意) 校外生月謝納付ノ際ハ必ス本紙ヲ切込キ居所ノ氏名及爲替番號金額並ニ學年別、月謝ノ月別若クハ何月分ヨリ何月分迄ト記入シ爲替券ニ添附スルモノナリ

納付書

爲替番號 ()

一金

但三十五年度第

學年

月分月謝

右納付候也

居所

明治三十年

月 日

和佛法律學校會計局御中

納付書

爲替番號 ()

一金

但三十五年度第

學年

月分月謝

右納付候也

居所

明治三十年

月 日

和佛法律學校會計局御中

法學志林

每月一回十五日發行
校及生徒校外生三限リ
一冊特價銀共九錢
十冊前金郵税共金八十錢

第三十八號

十二月十五日發行

志林

○最近判例批評
法學博士 梅 謙次郎
○受託裁判所ノ裁判員カ人事訴訟法ノ規定ニ從ヒ無
能力者ノ爲メニ選任シタル代理人ノ性質ヲ論ス
法學士 松岡義正

外國會社

法學士 志田鉦太郎

纂論

○特選ノ人ニ對スル口頭ノ意見表示
I. Y 生

批評

○在延職人顧問ノ申出ト裁判
法學士 信岡雄四郎

解疑

○公訴抹消請求ノ訴ヲ登記抹消ノ訴ニ變更スルコト
法學士 遠藤忠次

其他

○買戻ノ特約ニ依ラザル解除權行使ノ效力
法學士 谷野 格

判例、雜報、記事 數十件

發行所 和佛法律學校

(明治三十二年十二月九日內務省許可)

(明治三十五年十一月四日第三種郵便物認可 毎月十九回三日五日六日八日十日十一日十三日十五日十六日十八日十九日廿一日廿三日廿五日廿六日廿八日廿九日皆發行)

明治三十五年十二月廿二日印刷
明治三十五年十二月廿三日發行
(定價金貳拾五錢)

編輯者

東京市牛込區牛込北町十番地
萩原 敬之

印刷者

東京市牛込區矢來町三番地
小宮 山信好

印刷所

東京市芝區西ノ久保明舟町十一番地
金子 活版所

發行所 司法省 和佛法律學校

(電話番町百七十四番)